

俳句「遊」クラブ活動踏み跡集

2010年4月～2021年3月



彩の国いきがい大学伊奈学園

専科一期の会

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	計
★俳句「遊」クラブ R2はコロナの為に通信句会5回実施 下段開催回数と参加者人数											
6-80	11-156	11-144	12-155	12-140	12-118	10-105	11-97	12-101	10-81	7-62	114-1239

立ち上げの経過

平成22年4月20日に、この3月に専科1期「まちづくり」コースを卒業した有志13名が集まり、俳句クラブを立ち上げました。講師は同じく専科1期「郷土を知る」コースをご卒業の梅田 博先生にお願いすることになりました。

俳句遊クラブ活動報告73

平成28年10月18日(火)、俳句遊クラブは北本市野外活動センター(まほろばの郷)にて吟行しました。先月は台風で中止になりましたが再度チャレンジ、遊クラブ全員参加(11名 + 先生)の、秋晴れで最高の「吟行日和」となりました。まほろばの郷の「まほろば」とは、本当に優れた良いところ・場所という意味だそうです。近くには氷川神社、巖島神社、須賀神社と3つの神社がありました。皆でそれぞれ句を作りました。ランチはこれまた最高・・・歩いてすぐのイタリアンレストランで舌鼓をうちました。活動センターの温もりのある会議室に戻って句を作り、いつものおとぼけあり、笑いありの楽しい句会となりました。来月は別所沼公園へ吟行の予定です。(新井真弓 記)



梅田先生の句

秋祭真白く大き幟立つ

秋空を一刀両断飛行機雲

秀麗やお宮参りの子は眠り

10月の句(5名自薦の句)

秋澄みて連山青く近くあり	石井一好
秋深し宮司の衣赤く冴え	市川三重子
秋高しヨガサークルが芝の上	鈴木清子
秋天に幟はためく村の杜	高橋幸子
宮参り祈りとどけむ神無月	蔦川忠義



俳句遊クラブ設立

平成22年4月20日に、この3月に専科1期「まちづくり」コースを卒業した有志13名が集まり、俳句クラブを立ち上げました。講師は同じく専科1期「郷土を知る」コースをご卒業の梅田博先生にお願いすることになりました。クラブの名称は、俳句遊クラブと決まりました。当初梅田先生より、悠久の「悠」クラブではどうかのお話がありましたが、有志の面々の現在の實力では「遊」の方が適当であろうということになったものです。月1回、原則第3火曜日の午後13:30から約2時間、県活の会議室で句会が開催される予定です。会費は月500円、石井一好さんが部長となり、その他副部長2名、会計1名、会報係1名、幹事1名も決まりました。有志を3班編成とし、各々班長も決めました。今後は3か月に1回の割合で行くことになっている吟行の行先の選定、吟行先の句会場の確保などを各班が順番で行うこととなります。6月15日の第1回の吟行は、近場のばら園と決まりました。午前中に句を作り、午後は県活の会議室で句会を行う予定です。4月20日は、設立に際しての打ち合わせ終了後、早速梅田先生から「俳句の基礎知識」を講義して頂き、次回までに俳句を2句作ってくるようにとの宿題が出ました。俳句を始めるにあたっての必需品ということで、全員が「季寄せ」を購入しました。(久保田圭子)



俳句遊クラブ活動報告 2

6月15日（火）午前11時に県活に集合、参加者は12名、直ちに徒歩で伊奈のバラ園に吟行した。前日に関東も梅雨入りするが、当日は強い日差しの晴天になる。肝心のバラはすでに盛りを過ぎていたが、遅咲きのバラは残り、雨上がりの清々しさのなかで、良い香りを漂わせていた。初めての吟行で、短時間（3～40分）での3句作成は大変な仕事だ。各々一所懸命で真剣な姿が見てとれる。時間内には名句？をしたためたようだ。正午には県活に戻り「馬車道」で昼食会、話題いっぱい、瞬く間に1時間が過ぎる。午後はいよいよ教室で句会、整理の時間を少々とり、一人3句を投句する。選句（参会者が投句した他人の句を選ぶ作業）に入ると各々が一喜一憂、自作の句の行く末が気に掛って仕方がない。そんな合間に講師の梅田博先生により懇切丁寧な批評、添削があり、我々素人集団の句も何とか格好がついてきて、ようやく安堵する。最期に先生より、特選、入選の句が発表され句会は終了した。午後も3時半は回っていたと思う。俳句を通して、その人となりや心情が垣間みられ、気心知れた親しみの持てる交友を続けられれば良いと思っています。

次回の句会が楽しみです。（石井一好）



俳句遊クラブ活動報告 3

10月12日（火）秋曇りの中、葛飾柴又に梅田先生と生徒12名が吟行しました。午前10時過ぎに京成柴又駅を出発、先ず「矢切りの渡し」まで行くも乗り場は施錠され対岸の船は動く様子なし、空しく句作りを始めたところ、な何んと船がこちらに向かってくるではないか。船頭さんに我々は時間なく矢切りで下船せぬゆえ往復をと頼んだところ、宜しい、では江戸川を少し遊覧しようギッチラコと櫓がしなり、1人200円で思いがけない助け舟に愉快爽快。次に帝釈天にお参りし、参道のお店を見ての後、今日の句会会場「山本亭」（旧山本家邸宅・現葛飾区所有）へと移動する。庭園に面した部屋で美味しいお弁当をいただく。さて、それから各自3句の提出、選句の発表の後講師による指導と、入選句・特選句が披露され、和気あいあいの句会終了。やれ疲れたからと、抹茶・ぜんざい等を注文おしゃべりに興じ、満足してお開きとなりました。

特選3句

寅さんも歩みし参道秋浅し

秋澄むや岸边に漂よう渡し舟

庭園の静けさの中萩の花



俳句遊クラブ活動報告 4

11月16日(火)、俳句遊クラブは11月の句会を県活の会議室で行いました。今月の兼題は「うそ寒」です。生徒13名が集い、梅田先生から俳句の講義を受けた後、いつも通り参加者それぞれが作成した兼題1句と、自由句2句の合計3句を清記、選句、披講しました。梅田先生には毎月入選句、特選句を選んで頂いており、その際に注意点などを指導して頂いています。また、今月からは参加者全員が自作の句で気に入っているものを1句選び、専科のホームページで披露させて頂くことにしました。(久保田 記)

11月の句(アイウエオ順)

資料館籠に山盛り烏瓜(カラスウリ)	新井真弓
そぞろ寒祭囃子の熱き音	石井一好
犬吠ゆや手あげこたえる秋日和	市川三重子
鐘の音の地を這ひ伝ふ秋の寺	久保田圭子
うそ寒き野辺山の駅一人待つ	小林正子
七五三赤いべべ着てはしゃぎけり	熊倉征子
ぽろぽろと触るればこぼれ零余子(ムカゴ)かな	小山とし
秋気かな煙たなびく浅間山	瀧澤正高
あふれる湯背に聞きひとり谷紅葉	田島許子
秋風に湯煙ゆらり草津の湯	山田泰子
秋晴れや舟頭唄う巳波川(ウズマガワ)	山岸米子
柿の木や鳥に残せる実がふたつ	宮崎素子

俳句遊クラブ活動報告 5

12月14日に、専科1期俳句クラブ・ゆめクラブと遊クラブの初めての合同句会が開催されました。29名が句会に参加（ゆめ14名、遊14名、梅田先生）しましたが、いつもの倍近い人数のせい、少し緊張感の漂う句会になったように感じました。郷土を知るコースの皆さんの句を披講して頂き、大変わるところが多かったように思います。今後も親睦を兼ねて俳句を楽しみながらも研鑽を重ね、自分たちの俳句を少しでも深め、高めてゆくことを目指したいと思います。句会の後に、大宮の「徳樹庵」で合同忘年会があり、賑やかで楽しいひとときを過ごすことが出来ました。梅田先生には大変お世話になった1年でした。来年もよろしくご指導くださるようお願い致します。今回は合同句会だったので、先月から始めた自薦の句ではなく、特選だった6句を掲載させていただきます。

12月の句（アイウエオ順）

山茶花や日を集めては咲き乱れ	市川三重子（遊）
師走とて変わらぬ日々が来ては去り	小林健一郎（ゆめ）
駆ける子の帽子に揺れし紅葉かな	高橋幸子（遊）
新聞の折込み厚き師走かな	田島許子（遊）
黒豆を炊く母みず師走かな	中島和子（ゆめ）



俳句遊クラブ活動報告 6

2011年1月18日(火)、俳句遊クラブは初句会を県活の会議室で行いました。冒頭、遊クラブの仲間同士で新年の挨拶、そして梅田先生には新年のご挨拶とともに今年もよろしくご指導下さいとお願いしました。今年もこの遊クラブの仲間達と和気あいあいと俳句を楽しみながら研鑽に努めたいと思います。今月の兼題は「初空」「初御空」です。生徒14名が集い、梅田先生から俳句の講義を受けた後、いつも通り参加者それぞれが作成した兼題1句と、自由句2句の合計3句を清記、選句、披講しました。今月も梅田先生の3句と参加者全員の自薦の1句を掲載させていただきます。(久保田 記)

梅田先生の句

初御空ゆるむことなき志

着水の水のきらめき大白鳥

藩校を称ふるごとく梅真白



1月の句 (アイウエオ順)

冬ざれや青年一人走りぬけ

新井真弓

ぬくもりにひとり微睡む昼炬燵 小山とし

春の海苔に染まる夕べかな 瀧澤正高

初空は藍から茜に詣で道

石井一好

紅富士の映えし初空澄み渡り 高橋幸子

またくるね上げたおてては初空へ

石井三代子

耐へて立つ冬木の瘤や天を突く 田島許子

コンサート余韻の消ゆる寒の月

市川三重子

耳澄ます琴の調べや園の春 蔦川忠義

深々と一礼したり初御空

久保田圭子

蠟梅の香で振り返り塀の内 宮崎素子

初春や離島めぐりの二人旅

小林正子

鳥のきて影絵あそびや白障子 山岸米子

初御空おだやかなりし日の出かな

熊倉征子

俳句遊クラブ活動報告 7

平成 23 年 2 月 8 日（火）曇り空の中、上尾の円山公園に梅田先生と生徒 13 名で吟行しました。11 時~12 時の間公園内を巡り、それぞれ句作りを始めました。園内を歩けど花は無くやっと白梅が 1 本花をつけていました。でも池には水鳥が群れていたりと、太公望が釣り糸を垂れていたりと、結構句材はあったように思いました。野菜を売っていた所もあったようで、それぞれ楽しい買い物をした方達も居たようです。句会は“そうま”で昼食後始まりました。選句の発表後、梅田先生のご指導と今回も沢山の入選と特選を選んでいただき、楽しく時を過ごし散会となりました。（高橋幸子記）

梅田先生の句

おしどりの寄り添ふてゐて声上げず

春落ち葉もろとも堰を越える水

春寒の空メタセコイアの先尖り

2月の句

冬ざれやゲートボールの音高く	新井真弓
空くもり公園の道に木瓜の花	石井三代子
春寒や太公望の背もまるく	市川三重子
色彩の乏しき園に春きざす	久保田圭子
柳の芽風に吹かれて日差し待つ	熊倉征子
水底を横切る影や春の鯉	小山とし
水鳥の語らふごとく寄りそひて	高橋幸子
静けさや梅の香りに水の音	瀧澤正高
胴巻きで出番を待つやエドヒガン	蔦川忠義
こぶしの芽毛に覆われてふくらみぬ	宮崎素子
底冷えや釣り人池に糸をたれ	山岸米子
水温む鯉の動きに波紋大	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 8

2011年4月19日(火)、俳句遊クラブは4月の句会を県活の会議室で行いました。3月は東日本大震災の影響で中止となったので、2カ月ぶりの句会となりました。今回から新たに2名の方が参加され、総勢16名が今年度も梅田先生にご指導頂くことになりました。遊クラブではいつも和気あいあいと句会を楽しんでいます。梅田先生から俳句の講義を受けた後、いつも通り参加者それぞれが作成した3句を清記、選句、披講しました。今月も梅田先生の3句と参加者の自薦の1句を掲載させていただきます。

(久保田 記)

梅田先生の句

天よりも明るきしだれ桜かな
散ることをもうためらはぬ桜かな
自らの赤さに倦みし八重椿

4月の句 (アイウエオ順)

日をあびて光る瑠璃色犬ふぐり	新井真弓
春の天昇龍のごと スカイツリー	石井一好
もう一度囲碁のおさら春の夜	石井三代子
春雪や蓑笠つけて露天風呂	市川三重子
夕暮れに灯りを点す軒の梅	久保田圭子
一本が諸人酔はず滝桜	大島 修
霽るるや墨絵のごとし津軽富士	小林正子
菜の花や蛇行の川面黄に染むる	小山とし
神前婚花の境内匂ひ立つ	高橋幸子
春の宵竹の葉ゆらぐ露天風呂	瀧澤正高
春寒しゆるむ蕾に身を屈め	田島許子
一輪車調子取る子に花吹雪	蔦川忠義
大津波耐えて桜の花開く	野良テル
菜の花の黄の絨毯の広がれり	山岸米子
ゆらゆらと湖面に浮かぶ花筏	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 9

2011年5月17日（火）、俳句遊クラブは5月の句会を県活の会議室で行いました。欠席者が1名で総勢16名が参加しました。梅田先生からも、この俳句遊クラブは出席率が良いとお褒めの言葉を頂きました。梅田先生から俳句の講義を受けた後、いつも通り和気あいあいと参加者それぞれが作成した3句を清記、選句、披講しました。今月からは梅田先生の3句と、参加者のうちの5名が自薦の句を掲載することになりました。次回6月の句会は氷川神社・大宮公園に吟行の予定です。（久保田 記）

梅田博先生の句

熊谷草一花豊かなりし風
ハンカチの木の下風よく薫り
志高きにありて松の芯

4月の句（5名）

風薫る社の杜や鷺の宮	新井真弓
夏場所は幟も消えてしまひけり	石井一好
郭公や郭公と鳴くこともなく	市川三重子
薫風や赤い帽子の道祖神	大島 修
かんざしの揺れるが如し藤の房	久保田圭子



俳句遊クラブ活動報告 10

平成23年6月21日(火)、氷川神社・大宮公園に於いて、俳句「遊」クラブの吟行会が行われました。梅田先生・生徒14名の参加者でした。梅田先生から季語のお話がありました。(木下闇・梅雨曇り・梅雨晴れ・万緑・夏帽子・今年竹等・・・)梅雨どきならではの天候の変化もありましたが、多くの句材にも恵まれました。徳樹庵での昼食後句会が行われましたが、草木のみならず鳥・雨蛙・亀・雀・だんごと個性豊かな句が登場致しました。賑やかな笑い声の中、なごやかな句会が終わりました。(小山とし記)

梅田博先生の句

夏足袋の神宮颯爽たりしかな
甲羅干す亀のひしめく褥暑かな
本殿に青水無月の風渡る

6月の句(5名自薦の句)

梅雨ぐもり小さな縁朱の内に	石井三代子
緑陰や灯籠並ぶ神の道	久保田圭子
梅雨晴れ間総社で祈る幸せを	熊倉征子
参道にすれ違ふ人夏帽子	小林正子
あをあをと高さを競ひ今年竹	小山とし



★俳句遊クラブ活動報告11の7月はお休みです

俳句遊クラブ活動報告 1 2

平成23年8月16日(火)、県活の会議室で俳句「遊」クラブの句会が行われました。お盆の時期で猛暑日にもかかわらず、先生・生徒合わせて15名が集い賑やかな句会となりました。梅田先生から「俳句上達のポイント」の説明があり、その後いつも通り兼題と自由句合わせて3句を清記、選句しました。今月の兼題は「内水」「水を打つ」でした。梅田先生の3句と生徒5名の自薦の句を下記します。(久保田 圭子記)

梅田博先生の句

水打ってなほ納まらぬ憤り
太郎次郎三郎青柿ふくらめる
夏の月赤く妖しき色の満ち

6月の句(5名自薦の句)

南瓜煮る亡母(ハ)を待つかに膳に着く
朝蟬の杜を揺るがすごとくかな
夏祭りサンバのリズム胸躍る
葉の陰の蜘蛛の住み処も風にゆれ
青柿や生きる力のせめぎ合ひ

小山とし
高橋幸子
瀧澤正高
田島許子
蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 1 3

平成23年9月20日（火）県活の会議室に於いて、俳句「遊」クラブの月例句会が開かれました。15名の参加でした（1名欠席）。日頃梅田先生からはこの遊クラブのメンバーは欠席率が少なく、意欲があるとお褒めの言葉を頂いています。俳句の腕前でも先生をあっと言わせるように研鑽を重ねたいと思います。今月の兼題は、「秋の蟬、残る蟬」でした。兼題句と自由句2句の合わせて3句が披講・選句されました。来月は国分寺の「殿ヶ谷戸庭園」へ吟行の予定です。（久保田圭子記）

梅田博先生の句

被災地へ名月明るすぎないか

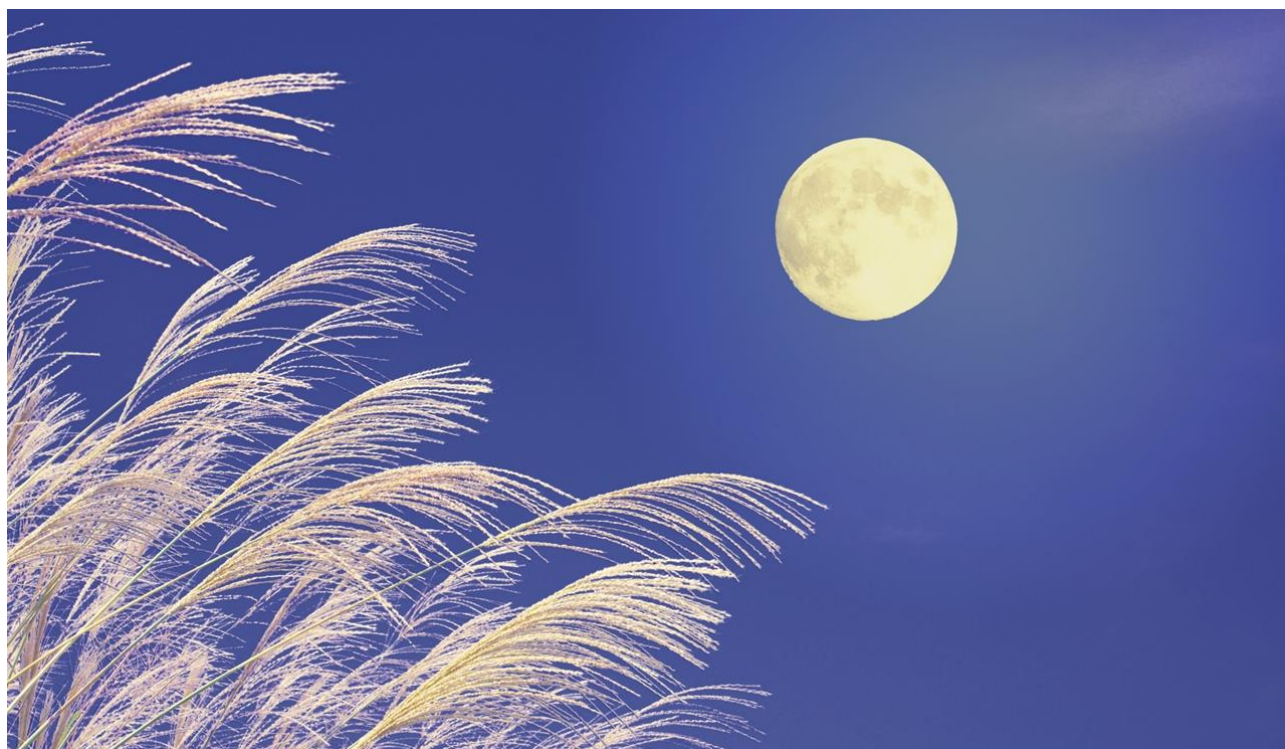
湧き上がる秋蟬谷中墓地に入る

酔芙蓉われを惑はす色ならん

9月の句（5名自薦の句）

今宵また鳴き通すのか虫たちよ
ビル街のいずこより来し揚羽蝶
秋蟬の声静まれり朝の寺
墓参りお帰りの声母偲ぶ
その中に寂しき声も残り蟬

新井真弓
石井一好
野芳テル
山岸米子
山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 1 4

平成 23 年 10 月 11 日（火）国分寺市の「殿ヶ谷戸庭園」で俳句「遊」クラブの吟行が行われました。この庭園は、大正の初期に江口定修（後の満鉄副総裁）の別荘地として整備され、その後昭和 4 年三菱財閥の岩崎家別邸となり、現在は東京都立庭園として管理されています。当日は秋たけなわの吟行日和、先生から季語のお話を聞いた後、酔芙蓉の見事な花に迎えられメモを片手の吟行スタートです。お昼は庭園内の「紅葉亭」座敷でお楽しみ弁当を広げての俳句談義？。各自 3 句を提出し、句会の始まりです。庭園の閑静な風情と、隣の東屋でおしゃべりに夢中な来園者グループの嬌声に戸惑いながらも、こちらも負けじと元気良く披講、選句を行いました。先生からは、吟行は一人になって、一つのことをじっくりと良く見る事が大切との教えを頂き、お茶とお菓子で反省し今後一層の勉強を誓って、無事にお開きとなりました。（鳶川忠義記）

梅田博先生の句

澄む水を一直線に鯉の群
鹿威し天にひびきて秋さやか
竹の径歩みて深みゆく秋思

10月の句（5名自薦の句）

七草の短かき便り今朝の秋	石井三代子
地球よりわく湧水の冷ややかさ	市川三重子
風に舞ひ色変わりけり酔芙蓉	大島 修
秋うらら異人みとれる鹿おどし	小林正子
頬染めて迎えて来るる酔芙蓉	小山とし



俳句遊クラブ活動報告 15

平成23年11月15日（火）県活の会議室に於いて、俳句「遊」クラブの月例句会が開かれました。13名の参加でした（3名欠席でしたが1名は投句しました）。梅田先生から「冬の季語」について説明がありました。今月の兼題は、「菊人形」でした。兼題句と自由句2句の合わせて3句が披講・選句されました。来月は12月13日に俳句「夢クラブ」との合同句会を行い、句会の後は昨年同様忘年会を行う予定です。（久保田圭子記）

梅田博先生の句

仇討の眼吊り上げ菊人形

青空の緊まりて色を変へぬ松

長靴の逆さに干され冬の空

11月の句（5名自薦の句）

菊人形顔愁い深きかな

紅葉山錦のごとく信州路

どんぐりを拾いまくる子赤帽子

秋時雨孫となぞなぞ遊びかな

カンバスに朱を描きたり秋の暮

久保田圭子

熊倉征子

高橋幸子

瀧澤正高

葛川忠義



俳句遊クラブ活動報告 16

平成23年12月13日(火) 県活に於いて俳句「遊」クラブと「夢」クラブの年末合同句会が行われました。梅田先生と「遊」12名、「夢」13名の出席者に加え、欠席者からの投句もあり熱気の中での句会となりました。兼題も遊クラブが「湯豆腐」、夢クラブが「焼芋」と教室は湯気が出そうです。これに自由句を含め3句の披講・選句が行われ、先生からの講評のち「俳句は言いすぎないくらいがよい」との教えを頂きました。そして、午後5時半から大宮徳樹庵において、盛大且品格のある合同忘年会が催されました。先生のご挨拶の後、「夢」八千代さんの乾杯で始まり、宴たけなわでの俳句クイズにエキサイト、そして来年の精進を期して「遊」大島さんの三本締めで無事お開きとなりました。楽しい様子は写真をご覧ください。(文：蔦川忠義・写真撮影：瀧澤正高)

梅田博先生の句

湯豆腐を一口いまだ癒えぬ妻

黙々と火を焚く古い焼蕎屋

裸木の天を恐れるごときか

12月の句 (自薦の句)

時雨るるや背中をまるめ家路へと
夕早し湯どうふ囲む二人かな
吹きだまり落葉に埋まる子猫かな
湯豆腐や爛も欲しいと腹の虫
ふところに抱かるる嬰冬日向
冬空や皆既月食しかと見る
黒々と浮かびし富士や冬茜
朝靄に白鳥飛来眼を見張る
雪吊りに枝垂れる縄白きこと
湯豆腐を思ひて買ひし銘酒かな
湯どうふの湯気なつかしき夫偲ぶ
湯豆腐を旅の思い出南禅寺
湯豆腐の湯気に包まれまよひ箸

新井真弓
石井三代子
市川三重子
大島 修
小山とし
熊倉征子
高橋幸子
瀧澤正高
田島許子
蔦川忠義
野良テル子
山岸米子
山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 17

平成24年1月17日（火）県活の会議室に於いて、俳句「遊」クラブの初句会が開かれました。全員参加となり梅田先生を入れて17名の句会でした。梅田先生から「冬の季語を学ぶ」ということで講義があり、その後句会となりました。今月の兼題は、「初湯・初風呂・初湯船」でした。兼題句と自由句2句の合わせて3句が披講・選句されました。来月は2月21日（火）に、大宮第2公園での吟行を行います。句会終了後、来年度の役割分担等について話し合いをしましたが時間切れとなり、来月以降に持ち越しとなりました。（久保田圭子記）

梅田博先生の句

痩せしこと喜ぶべきか初湯船
志ひしめきてをり冬木の芽
新暦我が誕生日より生まれり

★梅田先生の下記の句が1月15日付の毎日新聞で特選に選ばれました

頬に目にかくもきびしき空っ風

1月の句（5名の自薦の句）

線路ぎわ昭和食堂年忘れ	新井真弓
初風呂は一句得たしと長くなり	石井一好
蠟梅の透きて甘さのただよえり	石井三代子
駆ける子の髪逆だちて空っ風	市川三重子
さいはての賽の河原に初茜	大島修



俳句遊クラブ活動報告 18

平成24年2月21日(火)、俳句「遊」クラブは大宮第2公園で吟行を行いました。このところの寒さが嘘のような暖かさで、春の息吹を感じながらの散策となりました。折しも2月14日から梅まつりが開催されており、俳句の句材にはぴったりだと思われましたが、例年より開花が遅れているようで白梅は2分咲き程度、紅梅は5分咲き程度でした。しかしながら日当たりの良いところでは満開に近い紅梅もあり、また犬ふぐりやメタセコイアなども見受けられました。梅まつりの会場近くでは陶器市が開催されていて大層な賑わいでした。近くの池では太公望が釣り糸を垂れる姿も見受けられました。今回は風邪を引いて急遽不参加となったメンバーが5人おり、梅田先生を入れて総勢12名での吟行となりました。大宮第2公園での吟行を終えて徳樹庵で昼食をとった後、各々が3句を投句し、5句を選句、披講しました。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

梅咲けとばかり天地に光満ち

若武者のごとき一輪梅真白

やんわりとメタセコイアの影あたたかし

2月の句(5名の自薦の句)

真白なる氷川の杜の梅咲けり	久保田圭子
日差し浴び誠可憐な犬ふぐり	熊倉征子
青芝に胴体の触れ歩く犬	小山とし
日に向かひ青空色にいぬふぐり	高橋幸子
梅固し空に向かひて芽を張りぬ	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 19

平成24年3月20日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。お彼岸のお中日でしたが13名が参加し、梅田先生を入れて総勢14名の句会となりました。最初に梅田先生から春の俳句の講義を受けました。その後句会となり、それぞれが3句を投句し、5句を選句、披講しました。3月の兼題は「風光る」でした。来月は鎌倉に吟行の予定です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

教会の真白き十字架(クルス) 風光る
濃紅梅空の重たくなりしかな
揚雲雀天女の笛のなるごとく

3月の句(5名の自薦の句)

銀色の蕾ふっくら風光る	野良テル
いにしえの雛遊びや御所人形	山岸米子
我ありと伸びる雑草風光る	新井真弓
ビル谷間やや静かなり風光る	石井一好
風光る一年たちてもガレキの山	市川三重子



俳句遊クラブ活動報告 20

平成24年4月17日（火）北鎌倉への吟行【先生を含め男性4名、女性10名が参加】曇り時々晴れ、のち雨（帰路の電車）の変わりやすい、吟行日和の1日でした。北鎌倉駅から円覚寺と明月院に向かい、境内を歩きながら短い時間でしたが、頭を捻りながらも一人3句作りました。それから、ひと駅電車に乗り、タクシーで「鎌倉虚子立子記念館」に行き、そこで句会を開催しました。帰りには、鳩サブレの店の3階で皆であんみつを食べました。頭を使ったせいか、甘いものがとても美味しく感じられました。（新井眞弓 記）

梅田博先生の句

み仏にうぐひすは声惜しまざる
著莪の花風ひんやりとやぐら墓
酒・桜供え閑高健の墓



4月の句（5名の自薦の句）

指先にふれてこぼれて雪柳
花は葉に山門くぐる修行僧
方丈の庇の陰に雀の巣
うすずみの重たき雲に春惜しむ
時頼の墓所を守りて松の芯

小山とし
小林正子
大島 修
石井三代子
久保田圭子



俳句遊クラブ活動報告 2 1

平成24年5月15日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。14名が参加し、梅田先生を入れて総勢15名の句会となりました。今回は初めての試みとして「席題」を与えられました。席題は「若葉・・・」でしたが、集合してから15分位の間に1句作らなくてはならず、苦戦していた人も多かったように思います。その後「俳句上達のポイント・初夏の秀句を学ぶ」ということで、著名な俳人の方々の句の説明を受けました。講義の後に句会となり、自由句2句、席題1句の合計3句を投句しました。いつも通り5句を選句、披講しました。来月はさきたま古墳に吟行の予定です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

野球部の声の一途や若葉光
鉄線花朝風に張り強めけり
全身にみなぎる力梅青し

5月の句(5名の自薦の句)

黄ボタンの目に鮮やかや朝の庭
こでまりの重く枝垂るる雨の朝
慈光寺や日陰にあまた著莪の花
桜咲き沐浴の孫足伸ばし
一振りに手応へのあり春筍

野良テル
高橋幸子
瀧澤正高
田島許子
葛川忠義



俳句遊クラブ活動報告 2 2

平成 24 年 6 月 19 日（火）俳句遊クラブはさきたま古墳公園へ吟行を行いました。（梅田先生含め男性 4 名、女性 9 名）曇りのち雨。梅雨の最中、しかも台風が接近中の事でありましたが、古墳を見ながら木々・草花・鳥たちに感動し、野外で勉強する元気な子供たちと挨拶を交わして、豊かな気持ちで 3 句作りしました。博物館近くの野外休憩所で各自持参した弁当を食べて、その後 3 句投句、5 句を選句、披講しました。初めての野外句会であった為か、終始笑い声が絶えず和やかな楽しい時間でした。途中から雨が降り帰宅の頃には大雨、いよいよ台風上陸となった思い出に残る 1 日でした。なお、句会の途中で物凄い雨が降ってきたので早々に解散したため、今月の自薦の 5 句はお休みとさせて頂きました。

（文：熊倉征子、写真：瀧澤正高）

梅田博先生の句

めまどひのまちはだかれる古墳みち
メタセコイアの樹間を通る風涼し
おほらかな風にあおられ蓮浮景



俳句遊クラブ活動報告 2 3

平成 24 年 7 月 10 日（水）俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅雨明けを思わせる真夏日でしたが、11 名が参加し、梅田先生を入れて 12 名の句会となりました。梅田先生から「俳句上達のポイント・夏の秀句を学ぶ」の講義を受けた後句会となり、それぞれが 3 句を投句 5 句を選句、披講しました。今月の兼題は「西瓜」でした。来月は席題 1 句 自由句 2 句 計 3 句です。（小林 正子記）

梅田博先生の句

満二才西瓜だらけの顔となり
眼差しのさびしき菩薩青時雨
無垢といふ朝空蓮の花開

7 月の句（5 名の自薦の句）

郭公と歩調も合ひて夕間暮れ
紫陽花や降りみ降ずむなりし空
籐椅子にホルンの音色聞き惚れし
梅雨晴間来客ありて心晴れ
たらい舟揺れて歓声夏の海

石井 一好
石井三代子
市川三重子
熊倉 征子
山岸 米子



俳句遊クラブ活動報告 24

平成24年8月21日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。立秋を過ぎたというのに猛暑が続いていますが、その中を12名が参加し、梅田先生を入れて総勢13名の句会となりました。今回は2回目の席題で、「百日紅」でした。集合してから15分位の間に1句作らなくてはならず、相変わらず苦戦した人も多かったように思います。その後「俳句上達のポイント・初秋の秀句を学ぶ」ということで講義を受けました。その後句会となり、自由句2句、席題1句の合計3句を投句しました。いつも通り5句を選句、披講しました。来月の兼題は「新涼、涼新た」です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

晩節を汚さじ白きさるすべり
流灯の川波荒き中に消ゆ
白き猫動かぬ路地や朝涼

8月の句(5名の自薦の句)

百日紅いつも遅れる路線バス
それぞれが思ひのたけを百日紅
天上大風地に朱鷺色の百日紅
夜明け空淡く染めたる百日紅
雲の峰むくりむくりと姿変へ

大島 修
久保田圭子
小林正子
高橋幸子
瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 25

平成24年9月18日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。残暑は一向におさまりませんが、朝晩はやはり涼しくなってきたように感じます。15名が参加し、梅田先生を入れて総勢16名の句会となりました。いつも早くお見えになる梅田先生が開始10分前になっても現れず、今日の幹事役が電話をしたところ、手違いでご自宅にいらっしゃることが判明しました。40分位で到着出来るとのことでしたので、待っている間に連絡事項や次回の吟行会の詳細説明を受けました。本日は自由句2句、兼題(新涼・涼新た)1句の合計3句を投句しましたが、時間節約のため事前に清記用紙に3句を書き込み先生の到着をお待ちしました。先生が到着されてから句会となりましたが、今回はハプニングがあったため、いつもより1句減らして4句を選句、披講しました。梅田先生が大層恐縮されて謝っていらっしゃいましたが、無事に到着されて良かったと皆で胸を撫で下ろした次第です。来月は新宿御苑への吟行となります。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

直立の茎のみどり曼珠沙華
秋場所のきらびやかなる幟立つ
新涼やラジコン飛行機舞ひ上が

9月の句(5名の自薦の句)

用水の流れに沿ってトンボ飛ぶ
雪隠の居心地良しや虫の秋
描かれし落ちゆく水に秋涼し
空高くとんぼ群れ飛ぶ見晴台
大驟雨人の動きが早くなる

田島許子
蔦川忠義
野良テル
山岸米子
山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 26

平成24年10月9日(火)、俳句「遊」クラブは新宿御苑への吟行を行いました。新宿駅に集合。天気は曇りで歩くには絶好の日和。先生と女性5人、男性3人、新宿御苑に向かって颯爽と歩きました。ところが、祝日の翌日は休園日と表示がしてあり皆がびっくり、がっかり。すぐに先生から「御茶ノ水の聖堂へ行きましょう」と提案があり、新宿駅まで引き返し御茶ノ水下車、湯島聖堂へ。中に入ると歴史を感じさせる大木のすだじい(ぶな科)等が茂り、又巨大な孔子像がどっしりと建っていたり、立派な孔子廟ありと俳句を詠むには絶好の名所。三々五々散策しながら句を詠みました。近くの神田明神まで足を延ばし、よい句が出来ますようにと祈る。明神下での甘酒やでほんのり甘く懐かしい甘酒を。新宿に戻り句会。先生から「ハプニングがあったにもかかわらず皆さん頑張って句を作りましたね」とねぎらいのお言葉を頂きました。ハプニングのおかげで行ったことのない名所に行くことが出来、有意義な1日でした。来月は自由句2句、席題1句の予定です。(野良テル記)

梅田博先生の句

秋思また愁思猫背の孔子像
神田明神お百度石に秋日差す

9月の句(5名の自薦の句)

秋深しビルの谷間に孔子廟
行く秋の聖堂見どころ多かりき
秋冷や世を憂いたる孔子像
秋うらら楷樹の枝枝鳩遊ぶ
ひよどりや泣く子の声もかき消して

新井真弓
石井一好
大島 修
市川三重子
高橋幸子



俳句遊クラブ活動報告 27

平成24年11月20日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。今月から新たに入会された大森勇さんを含め14名の参加となりました。俳句上達のポイントを先生に説明して頂き、皆和気あいあいの中行われました。席題は「菊」でした。(新井真弓記)

梅田博先生の句

廻廊に威儀を正して鉢の菊
幼な子も手締めに入り箇の市
枯蓮に尽きざる力残りをり



俳句遊クラブ活動報告 28

平成24年12月11日(火)、俳句「夢」クラブと「遊」クラブは合同句会を県活で行いました。梅田先生を含め総勢27名の句会でした。今回は人数が多かったことから2句を選句、披講しました。今回の兼題は「山眠る」でした。特選は8句でした。句会の後、大宮の徳樹庵で合同の忘年会を行いました。梅田先生から夢クラブと遊クラブの年間優秀賞の発表があり、それぞれ賞品が授与されました。俳句クイズも行われ、和気あいあいのうちに閉会となりました。次回の遊クラブの兼題は、「凧」となりました。(久保田圭子)

梅田博先生の句

ゆったりと雲を侍らせ山眠る
日の淡く風また淡くお茶の花



★俳句遊クラブ活動報告 29 平成25/1/25は大雪の後なので中止

俳句遊クラブ活動報告 30

平成25年2月19日(火)、俳句「遊」クラブは県活で今年初めての句会を行いました。立春をとうに過ぎたというのに寒い日が続いていますが、梅田先生を入れて11名の句会となりました。このほか欠席投句をした方が2名いましたので、総勢13人の俳句を選句、披講しました(兼題1句、自由句2句)。今回の兼題は「凧」でした。来月の兼題は「啓蟄」です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

苛立てる鳥声ひびき春北風
控へ目でゐてしたたかや寒椿
いかのぼり空はさながら蒼き海

2月の句(5名の自薦の句)

凧上げに親がいつしか熱中す	大島修
糸はなれ凧はきままにどこへやら	大森勇
帰へり待つ犬の逝にけり冬の暮	久保田圭子
満点の研ぎ澄まされし冬の星	小林正子
淡雪に染まるる畑や日差し降る	高橋幸子



俳句遊クラブ活動報告 3 1

平成25年3月19日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。つい先日までの寒さが嘘のような暖かい日が訪れていますが、春嵐そのものの強い風の日も多く、近年の異常気象を実感します。本日は穏やかな春爛漫といった日で、梅田先生はじめ総勢15名が集まりました。最初に梅田先生から「春の秀句を学ぶ」ということで講義があり、その後兼題1句(啓蟄)、自由句2句の3句を投句し句会となりました。来月の兼題は「落花・花吹雪・桜散る」です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

啓蟄の百穴のもう目覚めどき
紅梅のやんごとなきを見上げたる
白木蓮歎喜の声を挙ぐるごと

2月の句(5名の自薦の句)

畦道に見るも可憐な犬ふぐり	熊倉征子
自転車をはひらり躲して初蝶来	高橋幸子
河津町めぐり疲れて桜もち	瀧澤正高
明け早く冷たき風も梅香る	田島許子
大潮や帆船高く春立てり	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 3 2

平成25年4月16日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢14名が集まりました。最初に梅田先生から「初夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その後兼題1句(落花・花吹雪 桜散る)、自由句2句の3句を投句し句会となりました。来月は北本市の北本自然観察公園への吟行の予定です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

揚雲雀天の舞台に見失ふ
馬場の中までも激しき落花かな
うとまきまでの日差しや八重桜

4月の句(5名自薦の句)

かける子の笑顔の弾け落花浴ぶ	小林正子
かろやかに落花ころがる大社	野良テル
春霞瀬戸内の島墨絵巻	山田泰子
歌舞伎座のこけら落しや春の雨	山岸米子
山々にピンク鏤む桜かな	新井真弓



俳句遊クラブ活動報告 3 3

平成25年5月21日(火)、俳句「遊」クラブでは、北本自然公園にて吟行を行いました。先生を含め男性4人、女性8人の出席でした。自然学習センターには、そこで捕獲されたピンク色の蛇が飼われていました。公園は、広く自然のままの姿が保たれていました。暑い中、皆チリジリバラバラに、句を作りに歩きました。特に印象的だったのは、10羽の生まれたてのカルガモの子に出会えたことです。とても小さく可愛い姿をしていました。Kさんは3句全部が鴨の句でした。(よっぽど可愛かったのでしょうか!!)そして、笑いの絶えない楽しい句会となりました。来月は県活で句会を行う予定です。兼題は「走り梅雨」となりました。(文:新井真弓 写真:瀧澤正高)

梅田博先生の句

梅の実の汚れなかり青さかな
行々子少し休んでくれないか
疎まきまでに桑の実赤く熟れ

5月の句 (5名自薦の句)

葎切は葎に揺られて鳴き立てり	石井一好
青空や大葎切の天をつく	市川三重子
静寂の青葎原に風欲しき	大島 修
忍冬一日だけの甘さかな	久保田圭子
鴨の子の親を離れぬ十羽程	熊倉征子



俳句遊クラブ活動報告 3 4

平成 25 年 6 月 18 日 (火) 俳句「遊」クラブは県活 203 号室で句会を行いました。今日は 16 名中、8 名欠席でした。俳句上達ポイント「夏の秀句を学ぶ」という講義がありました。その後、兼題 1 句 (走り梅雨) 自由句 2 句・3 句を投句し句会となりました。蒸し暑い日でしたが、和気あいあい句会を終了しました。次回 (7 月 16 日) の兼題は「冷奴」です。(瀧澤正高 記)

梅田博先生の句

ほうたるをつつめる闇のやはらかく
ほほえみのままに暮れゆき令飲の花
スカイツリー遠のく走り梅雨の中

6 月の句 (5 名自薦の句)

男体山裾野賑はす梅の花
走り梅雨伸びに伸びたる草を引く
川音を聞きつまどろむ宿涼し
葉隠れに赤き実熟るるゆすらうめ
走り梅雨朝靄煙る八丁湖

山田泰子
野良テル
山岸米子
高橋幸子
瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 3 5

平成 25 年 7 月 16 日 (火)、俳句「遊」クラブは県活にて句会を行いました。梅田先生はじめ総勢 11 名が集まりました。最初に梅田先生から「夏の秀句を学ぶ」という事で講義があり、その後兼題 1 句 (冷奴)、自由句 2 句の 3 句を投句し句会となりました。ご指導を受けながら、笑いの絶えない楽しい句会となりました。次回 (8 月 20 日) の兼題は百日紅・白さるすべりです。(熊倉征子記)

梅田博先生の句

埒もなきことを悔ひるて冷奴
牧涼し牛はひたすら草を食み
狗狐眼するどく暑に対す

7 月の句 (5 名自薦の句)

安来節踊り切ったり冷奴
子かまきりそっと手を添へ放ちやる
雷鳴に居心地なく耳塞ぐ
百合の香の何かなじめず祝ひ花
入道雲雨を恐れて急ぎけり

蔦川忠義
新井真弓
市川三重子
大森 勇
熊倉征子



俳句遊クラブ活動報告 3 6

平成25年8月20日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢14名が集まりました。最初に梅田先生から「夏・秋の秀句を学ぶ」ということで講義があり、その後兼題1句(百日紅)、自由句2句の3句を投句し句会となりました。次回は9月17日に県活で句会の予定です。兼題は「残暑・秋暑し」です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

朝といふしづけさ白きさるすべり

風なくて棒立ちの大芒かな

蝉しくれ葬送曲のごとひびき

8月の句(5名自薦の句)

夏草と醬の匂ひ運河べり

亡き友の球受けし路地百日紅

二番子の巢立ち見届け燕発つ

禅寺に揺れ純白のさるすべり

百日紅今日は読書の日と決むる

石井一好

大島修

久保田圭子

小林正子

高橋幸子



俳句遊クラブ活動報告 3 7

平成25年9月17日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢14名が集まりました。最初に梅田先生から「俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶ」ということで講義があり、その後兼題1句(残暑・秋暑し)、自由句2句の3句を投句し句会となりました。句会の席上、梅田先生が俳人協会全国俳句大会で特選をとられて、9月10日に有楽町朝日ホールでの表彰式に出席されたということが分かり、今月の先生の句にこの特選句を加えることにしました。次回は10月1日に5月に行った北本自然観察公園を再び訪れ吟行の予定です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

眼の眩むほどの青空赤のまま
孔雀尾をひきずり歩く残暑かな
雨ふりて乱調のちちろ虫

俳人協会全国大会特選句(黛執 選)

うづくまる敗戦投手雲の峯

9月の句(5名自薦の句)

秋暑し猫もごろりと横になり	瀧澤正高
休耕田草たけだけし残暑かな	田島許子
どこにても生きて見せなむえのこ草	蔦川忠義
ひたすらに迷ひ歩くや秋暑し	山岸米子
萩の花音なくこぼるる狭庭かな	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 38

平成 25 年 10 月 1 日（火）俳句・遊クラブは、北本自然観察公園にて吟行をしました。先生を含め男性 6 人女性 5 人の参加でした。5 月に続き自然園は 2 回目ですが、ピンクの蛇が昨日脱皮したとかで、元気に動いていました。台風の影響で模様の日でしたが、吟行している間は薄日が差し幸いでした。秋の園内は自然がいっぱいで、虫は鳴き花々は咲き乱れ、皆さん良い句が出来たと思います。先生が雨天時用に用意してきて下さった、「俳句穴埋め遊び」と云うおまけも付き、楽しい句会となりました。次回「11 月 19 日」の兼題は「逝く秋・行く秋」です。（記事：高橋、写真：瀧澤）

梅田博先生の句

松虫の玲瓏たりし声を張り
薄ら日に金色の映え釣船草
亡霊のごとしや萎へし曼珠沙華



10月の句（5名自薦の句）

群とんぼ縦横無尽のみ空かな	新井眞弓
水引草沼のほとりに華やげり	大森 勇
鳥待ちの池に波紋や芒揺れ	石井一好
せせらぎに耳あずけて秋深む	小林正子
闇よりも昼間がさびしちちろ鳴く	大島 修



俳句遊クラブ活動報告 39

平成25年11月19日(火)、俳句「湯」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢15名が集まりました。最初に梅田先生から「俳句上達のポイント・冬の秀句を学ぶ」ということで講義があり、その後兼題1句(行く秋・逝く秋)、自由句2句の3句を投句し句会となりました。いつもの通り和気藹々の楽しい句会でした。早いもので来月は師走。句会の後に忘年会を予定しています。兼題は「冬晴」「冬晴れ」です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

初紅葉リスの韋駄天走りかな
神将の忿怒の眼すさまじや
逝く秋の神橋に身を正しけり

11月の句(5名自薦の句)

行く秋の亡き犬土に還したり
月冴ゆる家影うつる裏の庭
摘みとりしコスモスの束胸に揺れ
紅葉散り石垣残る懐古園
運動会転びたる子に白砂舞う

久保田圭子
熊倉征子
高橋幸子
瀧澤正高
田島許子



俳句遊クラブ活動報告 40

平成25年12月17日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢15名が集まりました。兼題「冬晴れ」を含む3句を投句し句会となりました。今年最後の句会で、参加者全員で梅田先生に感謝の意を伝えました。その後大宮に場所を移しての忘年会となり14名が参加しました。席上、梅田先生から今年の優秀者の発表があり賞品が授与されました。この遊クラブも発足してから3年半が経過し、参加者のレベルも上がってきたとのことで、来年からは「席題」などを積極的に取り入れ更に感性を磨きましようとお話がありました。新春の兼題は「初御空」です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

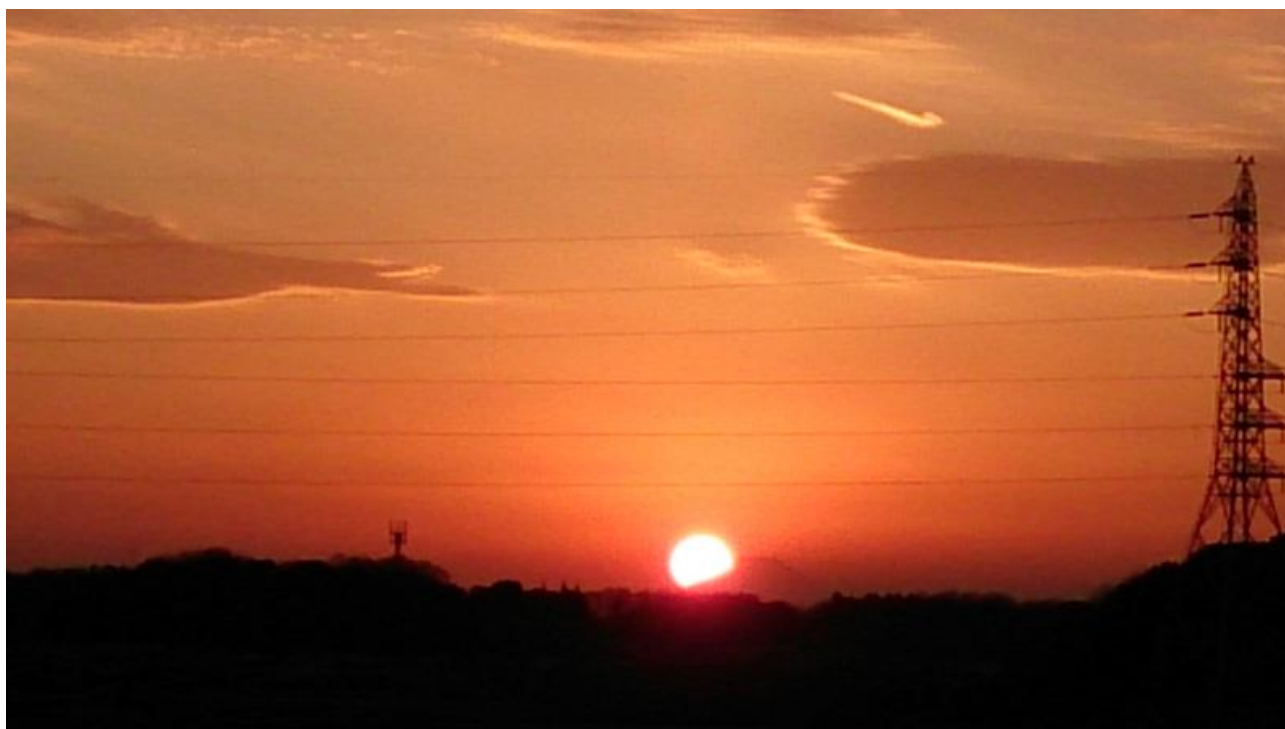
豆腐屋に動く人影霜の朝

鳥声や冬天掴む大櫓

冬晴れの修羅なす怒涛立ち上がり

12月の句(5名自薦の句)

大银杏枯れてなるかと垂乳根よ	新井真弓
町並みの切絵のごとく冬茜	市川三重子
突つ風湯畑硫黄まざり合ふ	田島許子
あさぼらけへっぴり腰の大根引き	蔦川忠義
初氷子猫驚く水飲み場	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 4 1

平成26年1月21日(火)、俳句「遊」クラブは県活で今年の初句会を行いました。梅田先生はじめ総勢14名が集まり、先生より新年のご挨拶を頂いた後「俳句上達のポイント・春の秀句を学ぶ」の講義があり、その後兼題「初御空」を含む3句を投句し句会となりました。みなさん初句会らしく澁刺と和やかな句会となり、今年も楽しく俳句頑張るぞの気合いを胸に無事終了しました。2月の兼題は「冴え返る」です。(蔦川忠義記)

梅田博先生の句

鶏鳴に忘ふ鶏鳴初御空
金柑やこの家幸せかと思ふ
枝々に花のごとくに残る雪

1月の句(5名自薦の句)

見てごらん昨日と違う初御空	蔦川忠義
群青の初御空へと祈る夢	野良テル
屠蘇祝う笑顔の兄弟時流れ	田島許子
御空聳へる富士に手を合わせ	山岸米子
臘梅に心を留めてそっと寄る	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 4 2

平成25年2月18日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢13名が集まりました。最初に梅田先生から俳句上達のポイント「春の秀句を学ぶ」ということで講義があり、その後兼題「冴え返る」を含む3句を投句し句会となりました。来月は吟行で向島百花園に行く予定です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

鬼女の面朱唇きりと冴返る
狂をしきまでの声拳げ恋の猫
沼風ぎて遠白鳥の淡く立つ

2月の句(5名自薦の句)

雪の朝青葉啄む鳥の群	新井真弓
紅椿一夜に蕾開きけり	市川三重子
凶らずも一職に生き亀鳴けり	大島 修
登校児霜踏みつつ声高に	大森 勇
冴え返るヘッドライトの二つの目	久保田圭子



俳句遊クラブ活動報告 4 3

2014. 3. 18 (火)、俳句遊クラブは吟行を行いました。東武スカイツリー線 東向島駅 10時集合、会員全員参加。向島百花園に徒歩10分程で到着。先生からいくつかの春の季語を教えていただき、三々五々と散り、作句に取り組んだ。春の陽射しはやわらかく感じたが、風が強く春一番を思わせるような強い風となった。この公園は、200年の歴史、江戸の花園といわれ、草木観賞を中心とした花園として開園され、まさに「四季百花の乱れ咲く園」を想像することができます。木五倍子の花や山しゅゆの花、ひまらやゆきのしたなどなど珍しい植物を見ることができました。一時間ほどで一周して終了。句会会場となるスマダ生涯学習センターのレストランで昼食を済ませ三階へ。広いゆったりとした和室でのびのびとリラックスして、和やかな雰囲気の中で句会は進行した。先生はいつもどおり、次々と添削をしてくださり、的確な表現方を教えていただきました。平成25年度は今日が最後の句会となり、又来年度に向けて一步前進、先生のように表現できる日がいつか来るように願う一日でした。来月の兼題は落花です。(野良テル記)

梅田博先生の句

梅散らしの風どっと来てさっと去る
日のほかに仰ぐものなし州浜草
日の光方に白木蓮開く



3月の句 (5名自薦の句)

春一番スカイツリーの揺るぎ無し	石井一好
竹筒の水琴窟や春の音	小林正子
青空へ弾けんばかり白木蓮	高橋幸子
春風や江戸の香りの百花園	瀧澤正高
隅田よりいずこ抜けくる春の水	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 4 4

平成25年4月15日(火)、俳句「遊」クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はじめ総勢13名が集まりました。梅田先生が第二句集「石榴の実」を刊行され、遊クラブのメンバー全員にその句集をプレゼントして下さいました。平成12年から平成24年までの326句がおさめられています。次回の句会までに頂いた句集の中からそれぞれが好きな句を3句選び瀧澤さんに纏めて頂くことになりました。沢山の名句の中から3句を選ぶのは大変ですが楽しみでもあります。その後兼題「落花」を含む3句を投句し句会となりました。来月は吟行で伊奈町のバラ園に行く予定です。(久保田圭子記)

梅田博先生の句

頬に触れ手にふれ落花いとしめる
花冷えをひたすら急ぐ交差点
この下は鯉の天国花筏

4月の句(5名自薦の句)

飛鳥山江戸の花見をおもひやる	野良テル
花吹雪肩にはらはら屋形船	山岸米子
花筏ゆるりと解くる鯉の口	山田泰子
生れたての卵に目鼻さくら咲く	新井真弓
特攻の名残の兵舎さくら散る	大島 修



俳句遊クラブ活動報告 4 5

平成 26 年 5 月 20 日 (火)、伊奈町記念公園のばら園で薔薇の香りを満喫しながら吟行を行いました。300 種 4500 本県下一を誇るばら園は、天候に恵まれ、また NHK テレビで放映されたこともあり花見客も多く賑わいの中、先生と会員全員 (14 名) 参加のもと満開に咲き誇る園内をばらの美しさに魅入りながの句作となりました。そのあと公園の近くにある羽貫コミュニティセンターにて句会を行いました。園内では難しいとか、なかなか詠めないなどと言いながら句会では素晴らしい句の発表がありました。来園者の中に車椅子で来られた団体もありその様を巧みに取り入れた句や、花の美しさ華麗さと短き花の命を詠みこんだ句、いかに花の美しさを表現すべきか苦労のあとがうかがえる句もあり、和気あいあいのなか笑いもあり、先生に句評いただきながらの楽しい句会となりました。来月は県活で句会となります。兼題は「青梅」です。(大森勇 記)

梅田博先生の句

黄のバラの歡喜に満ちてゐたりけり
大輪の紅ばら気怠るそうにゆれ
車椅子へと薔薇の風ばらの香よ



5 月の句 (5 名自薦の句)

高台に迫りて薔薇の百花かな	石井一好
デジカメがばらの香までを接写せり	大森 勇
アーチにはうつむく薔薇がよく似合ふ	小林正子
薔薇の園妖精のごと百花舞ふ	山岸米子
青空に匂ひ満ちる薔薇の園	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 4 6

平成26年6月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。冒頭梅田先生の第2句集「石榴の実」の中から各々が好きな3句選句したものを瀧澤さんがまとめて下さったので、3句の中の1句についてどうしてそれを選んだのか披講しました。皆が選句した句はダブっているものがほとんどなく、メンバーの感性が違うことが改めて明らかになりました。その後「夏の秀句を学ぶ」ということで講義を受け、兼題の「青梅」を含む3句を投句し句会を行いました。いつもの通り和気藹々の楽しい句会となりました。来月の兼題は「メロン」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

俊英のごとく輝き梅青し

はきはきとあいさつの子や茄子の花

放たれし鳩奔放に梅雨晴れ間

6月の句(5名自薦の句)

青梅をたわわに落とすシートかな	石井一好
花菖蒲薄紫の絹の雨	市川三重子
手弱女の如くに紫蘭の立ちみたり	久保田圭子
丘揺らぎ天空染むるポピーかな	高橋幸子
雨振りて菖蒲の花の生き生きと	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 47

平成26年7月15日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。「夏の秀句を学ぶ」ということで梅田先生が選句された6句の講義を受けましたが、改めて著名な俳人の感性に感銘を受けました。その後兼題の「メロン」を含む3句を投句し句会を行いました。いつもの通り和気藹々の楽しい句会となりました。来月の兼題は「盆一切」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

お仮屋をすどく掠め夏つばめ
向日葵の泣き顔ひとつもあらざりき
ひとときといふ刻マスクメロン食む

7月の句(5名自薦の句)

極暑へと牙剥く寺の鬼瓦	大島	修
誕生餅背負ひ転ぶ子梅雨晴れ間	蔦川	忠義
夏の空剣のごとく杉尖る	野良	テル
母逝きし夏花嫁になりし娘よ	山岸	米子
青空を透かして見せる合歡の花	山田	泰子



俳句遊クラブ活動報告 4 8

平成26年8月19日(火)、俳句遊クラブは句会を行いました。句会の前に暑気払いということで1階のレストランで梅田先生を囲んで昼食会を開きました。その後句会となり「秋の秀句を学ぶ」という題材で梅田先生から講義を受けました。講義の後は兼題の「盆一切」を含む3句を投句し、選句、披講しました。いつも通り和気藹々の楽しい句会でした。暑気払いでも話が出ましたがこの「遊」クラブは俳句のレベルは不明?ですが、とにかく楽しい会となっております。毎回出席するのが楽しみです。来月は丸山公園での吟行となります。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

迎へ盆にこにこと孫やってくる

棘をもて鬼蓮は日に抗ふる

よれよれのシャツをはだけて紫山子翁

8月の句(5名自薦の句)

蝸の声にせかされ厨房へ	新井 真弓
紫陽花の色をあせたる風情かな	大森 勇
人間を怒るが如く雷走る	久保田圭子
備前焼手になじみきて新豆腐	小林 正子
遺骨無き六十九年盆来る	高橋 幸子



俳句遊クラブ活動報告 49

平成 26 年 9 月 16 日（火）上尾丸山公園で吟行を行いました。南口駐車場 10 時集合、11 名の参加です。9 月に入りしのぎ易い日が続いていましたが、今夏最後の真夏日（30℃）となり、日射しが強く暑い中での句作となりました。広い園内は百日紅、サルビアが咲き誇り蝉時雨の中、ゲートボール、ウォーキング、遊具、アスレチックで遊ぶ親子、釣り人が楽しんでいました。句作を終え公園側の食事処で会食直前、突き上げるような強い揺れで震度 5 弱の地震があり（一瞬 3 年前の地震を思い出しました）驚きましたが、先生はじめ遊クラブの皆さんは落ち着いていて、動揺しなかったのは流石です。食事後、選句、披講と続き、いつも通り和気あいあいのなか笑いもあり、先生に添削して頂きながらの、楽しい句会となりました。今回は“9 月の真夏日に地震”と記憶に残る吟行日になりました。次回の兼題は「茸飯」です。

梅田博先生の句

我が真顔映って水の澄みにけり
初鴨のぐいぐい水を分け来たり
林中を歩みて秋思また秋思



9 月の句（5 名自薦の句）

鳴き納めなるか激しく秋の蝉	瀧澤正高
群れることきらふてをるや秋の蝶	蔦川忠義
高空へ鳴き声透る秋のせみ	野良テル
木漏れ日や団栗拾ひてのひらに	山岸米子
水連の白さ悟りを開きたり	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 50

平成26年10月21日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました(総勢12名)。句会の前に「秋の秀句を学ぶ」ということで梅田先生が選ばれた5句について講義を受けました。その後は兼題の「茸飯」を含む3句を投句し、選句、披講しました。いつも通りの楽しい句会となりました。今回の兼題の「茸飯」は、ほとんどの人が「母、香り、懐かしい」といったイメージをお持ちなので、それをそのまま句にしては皆同じでありきたりになってしまいます。これらをベースにしながらも違う表現で句を作るのだということを教えられました。来月は川越への吟行となります。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

鵞鋭声我が胸中を貫けり
茸飯ふっくら妻の誕生日
ほっとするやうな明るさ小菊咲く

10月の句(5名自薦の句)

つづら折り登り結願寺の菘	石井一好
ありし日の祖父のおもかげきのこ飯	大森 勇
運動会バチあざやかに五才の子	市川三重子
鈴鳴らし薄暮の森のきのこ狩	大島 修
母の未だ健やかなるや茸飯	久保田圭子



俳句遊クラブ活動報告 5 1

平成 26 年 11 月 18 日（火）川越吟行を 13 名参加で行いました。JR 川越駅に 9 時 50 分集合、やや風はあるが「小春日」か「冬日向」と心躍る晴天です。コースは、自由で 11 時 50 分に川越市役所裏に集合を確認しスタートしました。とはいえ句作りに外せない全員が喜多院に向い、その後は喜多院・五百羅漢組と蔵の街・菓子屋横丁組に別れたようです。12 時に迎えに来てもらった割烹「北野屋」の車 2 台に分乗し昼食・句会会場へ、楽しみな昼食です。さすが割烹で揚げたての天麩羅（何と最後に柿の天麩羅）等を賑やかに賞味しました。

★食後は 2 階広間に席を移し、選句、披講と続き、小江戸川越の秀句？が並び、いつもながら賑やかな句会となりました。コーヒーでくつろぎ、川越駅まで送ってもらい無事に吟行をお開きとしました。なお、12 月 16 日（火）は県活句会の後、午後 5 時半より蓮田で忘年会を行うことが決まりました。12 月の兼題は「冬晴」です（葛川忠義 記）

梅田博先生の句

喜多院の中庭綿虫ただよへる
時の鐘中は奈落や冬晴るる
たた寝をしてるる羅漢冬ぬくし



11月の句（5名自薦の句）

紅葉して五百羅漢の笑顔かな	新井真弓
末枯れや鐘の音聞こえ多宝塔	小林正子
冬晴や小江戸歩きの串だんご	高橋幸子
冬日陰蔵に眠れる祭り山車	瀧澤正高
まあ一杯羅漢膝つけ紅葉酒	葛川正義



俳句遊クラブ活動報告 5 2

平成26年12月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました(総勢11名)。今回は句会の後に忘年会を予定していたので「俳句上達のポイント・冬の秀句を学ぶ」の講義はなく、配られたプリントを各自自宅で読むように指導されました。すぐに句会となり兼題の「冬晴」を含む3句を投句し、選句、披講しました。夕方の忘年会は生憎都合が悪くなった人が続出して7名になってしまいました。例年通り梅田先生から今年の優秀作品の年間賞の発表があり賞品が渡されました。今回の忘年会の会場は蓮田でしたが落ち着いた雰囲気のお店で梅田先生を囲んで今年を振り返り和気藹々と楽しいひとときを過ごすことが出来ました。来月の兼題は「輪飾」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

冬晴や歩めば雲のうつくしき
時雨空水上バスの汽笛鳴り
日の差せる波にやすらふ浮寝鴨

12月の句(5名自薦の句)

照る紅葉気迫溢るる人力車	市川三重子
裸木の陰に尖れる息吹かな	大島修
冬鷺の一瞬溶けくる曇り空	大森勇
冬の夜やあらあらしき風ひとり聞く	野良テル
寒木瓜の自由奔放なりし枝	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 5 3

平成27年1月20日(火)、俳句遊クラブは県活で今年初めての句会を行いました(総勢12名)。最初に「俳句上達のポイント・春の秀句を学ぶ」の講義がありました。先生が選ばれた6句の句の季語は句の内容に合っていて季語が動かない句は良いということをお教えされました。こういう句を作るよう心掛けたいと思いました。その後句会となり、兼題の「輪飾」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「日脚伸ぶ」です。
(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

輪飾りを正面につけ配膳車
激浪のごとき風出て成人日
大手広げ天を仰げる出初式

1月の句(5名自薦の句)

被り藁童女のごとき寒牡丹	久保田圭子
女坂絵馬鈴なりや初参り	小林正子
初蹴りの子達意気高く集まれり	高橋幸子
輪飾をつけて笑顔の三輪車	山岸米子
枝枝を五線譜にせる寒雀	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 5 4

平成27年2月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました(総勢12名)。今月限りで2の方が退会となりご挨拶をされましたが寂しくなります。今回も「俳句上達のポイント・春の秀句を学ぶ」の講義がありました。俳句は言い足りない位が丁度良いと教わりました。説明してしまうと読者の想像力が働かないようです。その後句会となり、兼題の「日脚伸ぶ」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は蓮田市の元荒川で桜を観ながらの吟行となります。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

黎明の空を突き上げ冬木の芽
読み解けぬ閑所文書や日脚伸ぶ
武蔵野の押し渡る春北風

2月の句(5名自薦の句)

袴にネクタイ覗き年男	石井一好
早春の梢ふるはす鳥の声	高橋幸子
寒梅の蕾の中の一花かな	瀧澤正高
春日和ミニSLに子ら溢れ	蔦川忠義
恙なきとし経て古布の吊るし雛	山岸米子



俳句遊クラブ活動報告 5 5

平成27年3月31日(火)、蓮田市の西城沼公園と荒川沿いの椿山2丁目公園を散策し、俳句の会「遊」の吟行が開かれました。一気に桜が開き、穏やかな一日で、まさに吟行日和でした。先生を含め11名の参加でした。吟行後の句会は、椿山の一角にある喫茶店「新空間」を提供して頂き、とても楽しい時間となりました。(新井真弓 記)

梅田博先生の句

情念のいささかありて桜咲く
天上に光さざめく桜かな
人声のうるさしと亀鳴きにけ

3月の句 (5名自薦の句)

ゆさゆさと川面にかかる桜かな
雪やなぎ湧き立つごとく咲き乱れ
栄華とはかくの如しや花万朶
花に手を幼子の頬思はせる
空色に染まりさふなり花の雲

市川三重子
大森勇
久保田圭子
野良テル
山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 5 6

平成27年5月21日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢9名)3月末で3名の方が退会され、今日は2人が欠席でしたので少し寂しい感じがしました。現在のメンバーは専科1期まちづくりコース出身の方々ですが、今後は知人、友人に声をかけ、少しでも俳句に興味のある方を勧誘して行くことにしようと話しました。今回は梅田先生のご都合があり講義は飛ばしてすぐに句会となりました。兼題の「葉桜」を含む3句を投句し、選句、披講しました。(1人は欠席投句)来月は上平公園で吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

飛ぶことの愉しさうなる初つばめ
幼くてしかも生意気花は柔に
朝空へ椀櫃可憐な花かかけ

4月の句(5名自薦の句)

土弄り寝坊の蚯蚓慌てさす	新井真弓
鉦泉に相客ひとり余花の雨	石井一好
葉桜も肴になるか左きき	大森勇
紫木蓮はらりと解けし十連寺	瀧澤正高
(妻沼聖天様)	
若葉風囀碁に思案の布袋様	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 5 7

平成 27 年 5 月 19 日 (火)、俳句遊クラブは上平公園 (上尾市) で吟行をして、句会は羽貫コミュニティセンターで行いました。今回の吟行は先生から季語のヒントは無く、銘々が考える事になりました。この公園はテニスコースが何面も有り盛んにプレイする声のとびかっています。雨上がりと言う事も有り薔薇やヤマボウシ・マロニエの花等美しく咲き誇っていました。12時から句会となりそれぞれ素晴らしい句が出来上がりました。総勢 10 人 (一人欠席投句) で和気あいあいの内に句会も終わりにになりました。次回例会は 6 月 16 日 (火) 午後 1 時 30 分、県活センターで、兼題は「緑さす」です。(文:高橋幸子 写真:滝澤正高)

梅田博先生の句

メタセコイア若葉小暗き通りかな
武蔵野の空へ輝き山法師
ひたすらに壁打ちテニス新樹光



5月の句 (5名自薦の句)

ラクロスの若者一人汗光る	新井真弓
木下闇テニスの音の心地よし	市川三重子
打ち返すボールの軽き若葉風	高橋幸子
雨上がり色香を競ふバラの園	野良テル
山法師年に一度の晴れ舞台	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 5 8

平成27年6月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢10名)
最初に梅田先生から「夏の秀句を学ぶ」ということで講義があり独創的な言い回しが効果的であるということ学びました。その後句会となり兼題の「緑さす」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「熱」帯魚」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

花菖蒲胸透くやうな白さかな
緑さす花袋旧居の文机
きっぱりと日を返しるる鉄線花

6月の句(5名自薦の句)

いつのまに麦秋は消え鳥群れり	石井一好
緑さす巖かに花嫁の列	市川三重子
田植機の爪の巧みに苗を挿す	大森勇
紫陽花の雨の青よりいでしかな	瀧澤正高
園児バス手をふる子らや緑さす	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 59

平成27年7月21日（火）、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。（総勢11名）
来月の兼題の「炎暑・炎天」とはこのような日というような暑さでしたが、皆ものともせず全員参加の句会となりました。最初に梅田先生から「夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その後句会となり兼題の「熱帯魚」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「炎暑・炎天」です。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

果てしなき越後平野の青田原
天上へおほらかにゆれ蓮の花
火の色の鱈ひるがへし熱帯魚

7月の句（5名自薦の句）

葎草を根刮ぎ採らん鎌を手に	新井真弓
虹の橋船旅をしてみたくなり	久保田圭子
大海を夢見てゆらり熱帯魚	高橋幸子
梅雨明けや天のかなたに冥王星	野良テル
顔の塗りまだら仁王に夏日影	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 60

平成27年8月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢10名)
最初に梅田先生から「夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。今回は高名な俳人の句ではなく一般の無名の方々の俳句ということでしたがやはり切り口が鋭く大変参考になりました。その後句会となり兼題の「炎暑・炎天」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は川口市の川口神社、浅間神社、川口市立文化財センター、旧田中家住宅へ吟行の予定です。

梅田博先生の句

大鴉口をあけるる炎暑かな
逝く夏の川波音もなくうねる
落蟬のころがりもがく朝かな

8月の句(5名自薦の句)

炎天のなほも工事の火花散り	石井一好
黒雲に雨を期待の炎暑かな	大森勇
盆の夜竹灯籠に火が点り	瀧澤正高
被曝せし友を偲びて夏燃へる	葛川忠義
お茶会の帯もきりりとうす衣	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 6 1

平成27年9月15日(火)、お天気にも恵まれ総勢10名で、キューポラの町川口市を歩きながら、川口神社、浅間神社、川口私立文化財センター、旧田中家住宅の吟行でした。薄暗い電球の光、蚊取り線香を炊きながらの楽しい句会を経験しました。来月の県活での句会の兼題は「罽雲」です。(山田泰子 記)

梅田博先生の句

秋冷や包丁塚の先尖り
水兵像のたくましき眼や秋さやか
雲にまで届くマンション秋晴るる



9月の句 (5名自薦の句)

鯉の群れ口をつきだし秋の昼	新井真弓
悠久にスズカケの木や秋澄めり	市川三重子
かけっこの子等の叫びや秋の杜	久保田圭子
キューポラの面影いずこ桐一葉	高橋幸子
喧騒を抜けて神社に秋の風	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 6 2

平成27年10月20日(火)、県活で句会を行いました。今回は秋たけなわ皆さん多忙のため5名が欠席となり、梅田先生と生徒5名の総勢6名(欠席投句4名)の緊張感ある句会となりました。「秋の秀句を学ぶ」の講義では、「木の実降る音のぴしりと月曜日」山田径子、の感性に感動しました。来月は11月17日(火)、1班担当で野火止用水・平林寺へ吟行の予定です。(蔦川忠義 記)

梅田博先生の句

翳雲まほろばの旅こころざす
鳥声に切れあり澄みし朝の空
虫声の黄泉より聞こえるやうな

10月の句(5名自薦の句)

小鮒釣る子等の眼差し秋ふかし	大森 勇
秋天や機音響く織の里	高橋 幸子
緋の袖が波打つソーラン秋祭り	蔦川 忠義
風に乗るほのかな香り秋を知る	野良 テル
川芒風に遊びて日に踊る	山田 泰子



俳句遊クラブ活動報告 6 3

平成27年11月17日、俳句「遊」クラブは新座市の平林寺へ吟行を行い、紅葉を愛でながら小春日和の一日を楽しみました。先生を含め合計11名が参加。新座駅よりバスに乗り、10時半頃平林寺前に到着。野火止用水も見学したいとの声があがり、平林寺のまわりをぐるっと急いで回りました。(入口が一か所しかないため) 平日だということに人が多く、さすが紅葉の季節だと感じさせられました。奥の境内には松永耳庵や松平信綱の墓があり手を合わせました。昼食は新座市役所の食堂で450円の弁当を頂きましたが結構なお味でした。その後新座市民会館で句会を行いました。野火止用水の流れの速さや冬紅葉を詠ったものが多かったです。来月の兼題は「鯛焼き」です。句会の後に忘年会を予定しています。(新井真弓 記)

梅田博先生の句

灌木の樹相厳しく冬に入る
冬紅葉十重に二十重に阿弥陀仏
本堂とこの世を隔て白障子



11月の句 (5名自薦の句)

冬もみぢ作務衣の闊歩平林寺	新井真弓
小気味よく流れに乗せて落葉行き	石井一好
冬日さす里を見張るや塚の跡	市川三重子
打掛を羽織るが如し紅葉寺	久保田圭子
冬紅葉今この時ぞ平林寺	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 6 4

平成27年12月15日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢10名・欠席投句1名)最初に梅田先生から「冬の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。今回は正木ゆう子さんの「着膨れてなんだかめんどりの気分」などという楽しい句があり、こういう句もあるのだと教えられました。その後句会となり兼題の「鯛焼」を含む3句を投句し、選句、披講しました。句会の後、蓮田駅前の「彩々楽」で全員が揃って忘年会を行いました。梅田先生がメンバー全員に読売新聞の俳句あれこれというコラムを切り抜いて持ってきて下さいました。矢島渚男さんの「思いを籠める」という文章で、生涯にひとつ秀句を作ればよいということや俳句も詩なのでそこに籠められた作者の心がなければならず、「詩は志」(詩経)で志とは心の行くところということだそうです。梅田先生からは俳句は継続することが何より大切とアドバイスされました。美味しい懐石料理を頂きながら和気藹々とした楽しい締めくくりの会となりました。来月の兼題は「七草・七種・七日粥・七種粥」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

鯛焼を割って五臓を真っ二つ
昂然と天と向き合ふ冬摺
瑞々しきまでのくれなる実南天

12月の句(5名自薦の句)

この辺りあの鯛焼屋見つからず	石井一好
スクワット日課にしけり冬薔薇	市川三重子
鯛焼の人気の歌を口ずさむ	瀧澤正高
早暁に一筆の雲神の旅	蔦川忠義
紅葉せるどうだんの丸く刈られけり	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 6 5

平成28年1月19日(火)、俳句遊クラブは県活で今年初めての句会を行いました。(総勢10名・欠席投句1名)最初に梅田先生から「新年・冬の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その後句会となり兼題の「七草・七種・七日粥・七種粥」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「梅一切」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

まだ遊びたき洋風の降ろさるる

一合を妻と分け合ひ七日粥

初場所の厚き懸賞驚相み

1月の句(5名自薦の句)

コスプレの尻尾がゆれる初詣

新井真弓

舞ふ鷺に願ひ託して初日待つ

大森勇

大富士の独り舞台や冬茜

久保田圭子

七日粥沸きたつ中のあさみどり

高橋幸子

落款の朱の鮮やかや筆始め

山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 6 6

平成28年2月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢11名)大森さんのご紹介で鈴木清子さんが見学に来られました。そして来月からは同じ仲間(同人)として俳句作りをされることになりました。最初に梅田先生から「春の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その中に西村和子さんの「蛤の曇りも愛でむ漆椀」という句がありました。蛤汁はとろりと曇って見えるが、蛤は勿論、その曇りまでも愛でるとい句で、観察眼を持てば日常生活の中に句材は沢山あるのだと教えられました。その後句会となり、兼題の「梅一切」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は蓮田市役所内遊歩道及び元荒川へ吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

山中の白梅に張り空に張り
寒明けの精気溢るる兵馬俑
全屏風負ひたる男雛女雛かな

2月の句(5名自薦の句)

初場所や優勝決むるがぶり寄り	新井真弓
春の朝光輪よぎりゆける鳥	市川三重子
武蔵野の幸せ招く福寿草	瀧澤正高
八角堂丸く巡りて節分会	蔦川忠義
時知るや雑草芽吹くそこここに	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 67

平成 28 年 3 月 16 日（火）俳句遊クラブは、蓮田市文化財展示館見学・西城沼公園・元荒川散策の吟行をしました。（総勢 10 名・欠席 2 名）昨日の荒天から一転、快晴に恵まれ吟行日和でしたが、北風の強かったのには閉口しました。先生を交え総勢 10 人が展示館にて、学芸員の説明を聞きました。黒浜貝塚見学・復元された縄文時代の竪穴式住居の中に入っただけの見学も体験して、意外に室内が広く出来ていると感じました。12 時頃から“C a f e 新空間”にて昼食と句会を行いました。今回は北風が強かったせいか季語の“春北風”が多かったように思いました。先生からは吟行で作る俳句には“吟行なにがし……”と、いのように吟行という言葉は入れなくとも分かるので入れない方がよいというお話でした。又、今回は初めて自分がどんな気持・思いで句を作ったか 1 人ずつ発表の時間もありました。来月の句会は 4 月 1 9 日（火）県活です。兼題は桜餅です。（高橋幸子 記）

梅田博先生の句

早春の白刃のごと波光り
木の影のどれもふくらみあたたかし
たんぽぽの天を喝采してをりぬ



3月の句（5名自薦の句）

熱弁の学芸員や春北風	石井一好
春北風水面に小波立てつづけ	大森 勇
竹林を狂はすやうな春嵐	久保田圭子
強風に芽吹き柳の枝しなふ	高橋幸子
鋭角の木の芽ほぐして風にゆれ	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 6 8

平成28年4月19日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢11名・欠席投句1名)。最初に梅田先生から「初夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その中に藤田直子さんの「牛蛙運の近づくごと啼けり」という句がありました。牛蛙の声を運が近づくように作者が感じたということで、比喩はできれば離れているほうが良いと言われているが、この句はかなり離れているところがよいとの説明して頂きました。その後句会となり、兼題の「桜餅」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は上尾の十連寺へ吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

真つ新な朝空昇りゆく雲雀
熱き茶を啜りてよりの花疲れ
道の駅妻へと桜餅を買ふ

4月の句(5名自薦の句)

散りかけてなほもはなれずチューリップ	市川三重子
クローバー大の字に寝る親子かな	鈴木清子
存分に枝垂桜に酔ひ痴れる	瀧澤正高
菜の花に被ひつくせる暴れ川	川忠義
友誘い御衣黄桜愛でるかな	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 69

平成28年5月17日（火）俳句遊クラブはあいにくの雨の中、ふせぎ信仰に基づく行事が残る上尾市川地区の「川の大じめ」と徳川家康所縁の「十連寺」を吟行しました。ふせぎの大注連は、毎年5月15日に地元の神明神社で造り旧道の入り口に掛け替えるもので、当日は新しい大注連が飾られていました。ここから徒歩5分で「ほしな山十連寺」へ向かう。慶長18年（1613）鷹狩の途次、徳川家康が立ち寄り休憩した際、お堂の軒先に菜が十連ばかり干されているのを見て「干菜山光明院十連寺」と号すべしと命じたといわれ、江戸時代から葵紋の使用を許されている。青葉若葉は見事だが、雨と限られた場所での吟行となり句づくりには苦勞しました。その後車で句会場の上尾市コミュニティセンターへ移動し、近くの大穀上尾店で賑やかに昼食をいただきました。句会では、題材は同じでも夫々見方や感じ方は違うが、いかに表現するか大いに勉強になりました。最後に参加者全員で記念写真に納まり、雨もほぼ上がり、めでたしまでたし。来月の句会は6月21日（火）県活で、兼題は「木下闇」です。（蔦川忠義 記）

梅田博先生の句

青葉用木彫りの虎の怒れる眼
揚げたる大じめに沁む緑雨かな
十連寺心鎮めの青葉雨



5月の句（5名自薦の句）

本堂の三つ葉葵や若葉雨	石井一好
緑陰に琵琶奏でるごと弁財天	市川三重子
新緑の音なき小雨八角堂	大森 勇
山門の先に広がる新樹かな	高橋幸子
はらはらと芍薬散るか十連寺	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 70

平成28年6月21日（火）、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。（総勢11名）。最初に梅田先生から「夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その中に寺井谷子さんの「天上へ一花一魂泰山木」という句がありました。句の内容、リズムとも言うことなしの素晴らしい句で是非見習いたい一句とのことでした。その後句会となり、兼題の「緑陰・木下闇」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「氷水」です。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

黒猫の碧眼光る木下闇
泰山木一花一花の天を恋ふ
雨降れば雨に翳りぬ沙羅の花

6月の句（5名自薦の句）

緑陰を出でて眩しきティショット	新井真弓
ぼうたんを支へる茎の細さかな	久保田圭子
風戯え地を彩れるポピーかな	瀧澤正高
公私にはけじめの心沙羅の花	蔦川忠義
木下闇野草の光る植物園	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 7 1

平成28年7月19日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢11名)。最初に梅田先生から「夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その中に石田郷子さんの「睡蓮のあはひに水の奈落あり」という句がありました。睡蓮の葉の間に水が見える、その水が舞台の下にある奈落のようだという句意です。睡蓮と言うと華麗な花を詠うことが多く、この句のように葉の下の水を詠むことはあまりないそうで、表だけでなく裏をよく見て詠うことも良いと教わりました。その後句会となり、兼題の「氷水」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「盆一切」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

天風にゆったりと揺れ青芭蕉
一杯の氷水まだ落ち着かず
ごはごはの葉を擦りゆき蓮見舟

7月の句(5名自薦の句)

かき氷マッターホルンのごとくたつ	新井真弓
下山して時刻表見てかき氷	石井一好
山霧の尾根を眼下に露天の湯	大森 勇
河骨の一花まばゆき真昼かな	高橋幸子
軒下に来いよとばかり氷旗	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 7 2

平成28年8月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢10名・欠席投句2名)。最初に梅田先生から「秋の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。その中に岩田由美さんの「追ひあうて一つとなりぬ芋の露」という句がありました。芋の露が同じ葉の上で転がっていたが、追ったり追われたりして最後の一つになったという句です。芋の露の動きを細かく観察して俳句にしたもので芋の露の動きが良く見える秀句ということでした。私達も何気ない日常の出来事を良く見れば色々な俳句が作れるのだと教えられました。その後句会となり、兼題の「盆一切」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は北本市の「まほろばの郷」(北本市野外活動センター)に吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

向日葵の王者のごとく見下ろせり
大滝の轟音我を貫けり
まだ若き一粒種の盆の僧

8月の句(5名自薦の句)

精霊迎へ盆だなづくりせし頃 市川三重子
いともなくスマホ操る生身魂 久保田圭子
球音と声援響く雲の峰 鈴木清子
ルノアール展酷暑に負けぬ人の群れ 瀧澤正高
送り火の赤々と揺れ闇に浮く 野良テル



俳句遊クラブ活動報告 7 3

平成28年10月18日(火)、俳句遊クラブは北本市野外活動センター(まほろばの郷)にて吟行しました。先月は台風で中止になりましたが再度チャレンジ、遊クラブ全員参加(11名 + 先生)の、秋晴れで最高の「吟行日和」となりました。まほろばの郷の「まほろば」とは、本当に優れた良いところ・場所という意味だそうです。近くには氷川神社、巖島神社、須賀神社と3つの神社がありました。皆でそれぞれ句を作りました。ランチはこれまた最高……。歩いてすぐのイタリアンレストランで舌鼓をうちました。活動センターの温もりのある会議室に戻って句を作り、いつものおとぼけあり、笑いあいの楽しい句会となりました。来月は別所沼公園へ吟行の予定です。(新井真弓 記)

梅田博先生の句

秋祭真白く大き幟立っ
秋空を一刀両断飛行機雲
秀麗やお宮参りの子は眠り



10月の句 (5名自薦の句)

秋澄みて連山青く近くあり	石井一好
秋深し宮司の衣赤く冴え	市川三重子
秋高しヨガサークルが芝の上	鈴木清子
秋天に幟はためく村の杜	高橋幸子
宮参り祈りとどけむ神無月	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 74

平成28年11月15日(火)、俳句遊クラブはさいたま市の別所沼公園での吟行を行いました。今回は風邪を引いて欠席の人もいて先生を含め8人の吟行となりました。当日朝まで降っていた雨もあがり、別所沼公園の見事な冬紅葉や3年に一度開催される「さいたまトリエンナーレ」の作品などを鑑賞しながらの吟行となりました。別所沼公園には風の神(昭和55年にメキシコ州と埼玉県との姉妹提携1周年記念として贈呈された像)、慰霊碑(被曝40年に県の死没者の霊を慰め核廃絶の決意を後世に伝えるためのもの)、神保光太郎詩碑、長谷川かな女句碑、掛けた女像(彫刻家中野四郎氏作)、鈴木幸輔歌碑などがあり、公園内にはウコンザクラや落羽松、銀杏、紅葉などの紅葉がまだ残っており美しい景色を堪能しました。句会会場であるさいたま建産連研修センターに移動し、同じフロアのレストランでたまねぎと赤ワインでじっくり煮込んだという欧風カレーを皆で頂きました。その後句会となり3句を投句し、選句、披講しました。毎回笑い声の絶えない楽しい句会です。来月は県活での句会となります。兼題は「冬晴・冬晴れ」です。句会の後は恒例となった蓮田の「彩々楽」で忘年会を予定しています。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

全身を池に映して名の本枯る
立ち向かふ姿になれり大冬木
いっせいに向きを変へたる鴨の群れ



11月の句(5名自薦の句)

冬ぬくし電車ごっこの園児たち	新井真弓
天を突くごとき落羽松紅葉	石井一好
冬紅葉かな女の句碑に背を押され	久保田圭子
浮寝鳥人の気配で集まれり	瀧澤正高
冬紅葉丸ごと乗せて中の島	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 7 5

平成28年12月20日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。(総勢10名)。今年最後の句会です。続けて忘年会の予定だったのですぐに句会を開始しました。兼題の「冬晴」を含む3句を投句し、選句、披講しました。忘年会は例年通り蓮田駅前の懐石料理屋で行いました。落ち着いた店で美味しい料理を頂きながら和気藹々と楽しいひとときを過ごしました。忘年会の冒頭、梅田先生から「この遊クラブも7年続いているのもう皆さんは初心者とは言えない。これからは更なるレベルアップをはかって欲しい。そのための手段のひとつとして新聞投句なども考えて下さい」とのお話がありました。この遊クラブは本当に楽しい会でいつも笑いが絶えません。和気藹々とあっという間に年月が経ってしまいましたが、来年からはもう少し俳句のレベルを上げるための勉強もしなくてはいけないのだと思いました。忘年会では梅田先生から「俳句クイズ」が出され、20問の問題を皆で一生懸命考えました。1位は16問正解でした。2位12問、3位11問ということで先生からご褒美として俳句手帳を頂戴しました。その他のメンバーにはジャンボ宝くじの券を1枚ずつ配って下さいました。盛り上がった忘年会は3時間にも及び最後の一本締めで締めくくりました。来年も梅田先生はじめメンバー全員が健康に過ごし、俳句の更なる向上を目指して頑張りたいものです。来月の兼題は「寒日和」となりました。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

冬銀河灯を消して聴くシベリウス
冬晴へ干してまばゆき白シーツ
山茶花の思ひ余りごとく散り

12月の句 (5名自薦の句)

冬晴や遠き富士嶺もベール脱ぎ	大森勇
強き香を放ちて赤き菊枯るる	高橋幸子
風神の狂へるごとく枯葉舞ふ	蔦川忠義
木守柿鳥群がりて声高し	野良テル
冬晴れの光にまみれ走る子ら	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 7 6

平成29年1月17日(火)、俳句遊クラブは県活で初句会を行いました。年の初めということもあって全員が出席し、梅田先生を含め総勢12名の句会となりました。最初に梅田先生から「俳句上達のポイント・新年・冬の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。伊藤通明さんの「水鳥の争ふ水の上に立ち」という句がありました。水鳥は白鳥か鴨か分かりませんが、水の上に立ち上がるようにして激しく争っている景を切り取ったものです。実に写生の効いた句でまるでカメラで撮った風景のようです。水鳥を慈しむように見ている作者の眼を感じとって下さいとのことでした。梅田先生から「先月の忘年会でも話したが、この遊クラブも7年続いているのもう皆さんは初心者とは言えない。これからは更なるレベルアップをはかって新聞投句なども考えて下さい」とのお話が再度あり、少々プレッシャーを感じる年明けとなりました。その後兼題の「寒日和」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「春障子」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

大晦日貼紙1枚店を閉ぢ
初雀翔ちて日の香の残りけり
一輪車片手で回り寒日和

1月の句(5名自薦の句)

初富士や神の染めたる白一切	新井真弓
仰ぎ見る楠の大樹や冬青空	石井一好
枝枝の隙き間に浮かぶ冬満月	市川三重子
動かざる鯉の一団寒日和	久保田圭子
寒の夜夢のステージジュリエット	鈴木清子



俳句遊クラブ活動報告 77

平成29年2月21日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。総勢9名(欠席投句二名)の句会となりました。最初に梅田先生から「俳句上達のポイント・春の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。稲畑廣太郎さんの「鯉動き出すより春の水となる」という句がありました。寒いうちは鯉の動きは鈍くあまり動かない、春になり暖かくなると動くようになってくる。その様子を春の水になったので鯉が動き出すと言わず、鯉が動き出すと春の水となると逆転の発想の表現が素晴らしいとのことでした。その後兼題の「春障子」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は上尾の平塚公園周辺の吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

遠足の子らポニーへと走り寄る
春一番鶏鳴天に響かざる
大寺のぴたりと閉ざす春障子

2月の句(5名自薦の句)

春障子墨絵の如く小枝ゆれ	大森 勇
猫のため入れし切り込み春障子	市川三重子
ミシン踏む手元明るき春障子	高橋幸子
立春やエイサアの輪に引き込まれ	蔦川忠義
主の無き座椅子の窪みに春闌ける	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 7 8

平成29年4月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。先月は伊奈の平塚公園に吟行の予定でしたが、雨と寒さのため流れたため2か月ぶりの句会となりました。総勢9名(欠席投句2名)でした。メンバーの一人である鈴木清子さんがこの4月から伊奈学園の専攻コースに入学され、受講日が遊クラブの句会と重なることからこの1年は休みたいとのことで、来年の4月からまたジョインされるということになりました。梅田先生から「俳句上達のポイント・春・初夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。藤崎幸恵さんの「蔵窓の観音開き首夏一気」という句がありました。急に暑くなり初夏が一気にきて、土蔵の窓を観音開きをしている家がある。冬や春などと違って、夏は今日のように一気に来ることが多い。句のリズムが内容にふさわしく、とても歯切れが良いのが秀逸とのことでした。内容は勿論、句のリズムもとても大切だということをお教わりしました。その後兼題の「花吹雪」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は横浜方面(三溪園?)に吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

花筵老翁ひとり酒を酌む

勝馬の総身に浴ぶ花吹雪

一村の空のゆるみて梨の花

4月の句(5名自薦の句)

春の雷スマホの相手から聞こえ	新井真弓
ラクロスの黄色い喚声花吹雪	石井一好
幼子のひとひらひろう花吹雪	市川三重子
飼犬の逝きて三月や花の雨	高橋幸子
天空も地もまた覆う花吹雪	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 79

平成29年5月16日（火）万緑の上野界限を吟行しました。3月が雨天中止となり、久しぶりの吟行で場所も新たに勇躍10名が参加です。上野駅から先ずは正岡子規記念球場へ、句碑「春風やまりを投げたき草の原」の前で梅田先生より、今日は季語も全て自分で考え沢山の句を作りましょうと有り難きお言葉、なるほど清水観音に椎の花大木、西郷像に不忍池と歩けば当たる題材てんこ盛りに気合は十分。ボート乗り場をやり過ごし、時の風が吹く「旧岩崎邸庭園」へ岩崎久弥と設計者ジョサイア・コンドルの建築文化と明治の開化息吹に感動しました。また庭の「垂乳の大イチョウ」にも驚きました。お昼は近くのホテルパークサイドでとり、最寄りの上野区民館和室で句会を行いました。句会の題材はバラエティーに富み、見たものは同じはずだが、人それぞれの思いが句になる楽しさと、その難しさが大いに勉強になりました。句会の最後に全員で記念写真に納まり、風薫る不忍池をゆっくりと歩き、上野駅にて散会しました。来月は県活で句会です。兼題は「噴水」です。（蔦川忠義 記）

梅田博先生の句

万緑の中接吻をまだ解かず
西郷像のたくまき脛新樹光
五月憂し洋館暗き部屋巡り



5月の句（5名自薦の句）

万緑に立ち西郷像世を憂れう	大森 勇
新緑や風きらきらと寛永寺	瀧澤正高
くねりつつ天を目ざして椎大樹	蔦川忠義
晴天や西郷像の目は遙か	野良テル
青鷺の水面に清き立ち姿	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 80

平成29年6月20日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。総勢10名(欠席投句1名)でした。梅田先生から俳句上達のポイント・夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。中岡毅雄さんの「日月といふあはきもの梅雨の蝶」という句がありました。梅雨籠りの中では人の歳月の過ぎようは人によりさまざま。梅雨の日月のあはさを象徴するのに、ひっそりと雨宿りしている蝶を持っています。一句仕立ての句と違い、このような取り合わせの句は言葉を選ぶのが難しいと教わりました。その後兼題の「噴水」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は7月18日、県活で句会の予定です。兼題は「アイスコーヒーまたはアイスティー」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

ほとばしるものは歡喜ぞ大噴水
純白の気高さまでの蓮開く
万緑の山ふところの足湯かな

6月の句(5名自薦の句)

ひらひらと羽衣のごと花菖蒲	新井真弓
麦秋の大きく夕日沈み行き	石井一好
青田原天女の如く鷺降りる	久保田圭子
合歓の花うすくれなひの雨となり	高橋幸子
北山乙女てふ花菖蒲かがやけり	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 8 1

平成29年7月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。炎暑の中でしたが全員が揃いました(総勢11名)。梅田先生から「俳句上達のポイント・夏の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。岩岡中正さんの「人の世はいつも唐突かたつむり」という句がありました。岩岡さんは熊本在住の方です。おそらく熊本地震に遭われた経験から謳われたものと思われますが、かたつむりの歩みのようにゆるりと平和に過ぎてゆく毎日、そこにある日突然に災害や事件が起こって世の中や生活が一変してしまう、そのような恐怖と同居していることを忘れてはならないという句でした。その後兼題の「アイスティ・アイスコーヒー」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は8月15日、県活で句会の予定です。兼題は「終戦日」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

容赦なく葉を薙ぎゆける蓮見舟
明易し群鳩強き羽音立て
アイスティ思ひやうやく口にし

7月の句(5名自薦の句)

今年また更新したる暑さかな	大森 勇
天地裂け地獄絵となる出水川	久保田圭子
夏場所や茨の道の稀勢の里	瀧澤正高
青春の危ふき恋やアイスティ	蔦川忠義
眠りをば妨げらるる溽暑かな	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 8 2

平成29年8月15日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。お盆の最中ということもあり、梅田先生を入れて7名の句会となりました。欠席投句は3名でした。梅田先生から「俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。稲畑廣太郎さんの「星月夜この惑星に住む不思議」という句がありました。秋は空気も澄んで夜空も美しい。たくさんの星の輝きを眺めていると、その中で地球というこの太陽系の星に住んでいることは、まさに不思議なことだと思えてくる。広大な宇宙の中でこの地球に住むということを不思議に思う作者の視野の広さに敬服するとの解説でした。その後兼題の「終戦日」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は9月19日(火)に古河へ吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

涼風や赤子は拳(コブシ)かざし寝る
足元に射的の玉や夏祭
終戦日ふっくらと飯炊き上がり

8月の句(5名自薦の句)

新幹線虹のトンネル走りぬけ	新井真弓
特攻隊遺書の惨たり終戦日	市川三重子
千の百合尾瀬山肌に競ひ合ふ	大森 勇
球児等の熱き戦ひ終戦日	高橋幸子
青蓮の実の甘きこと幼き日	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 8 3

平成29年9月19日(火)、俳句遊クラブは古河で吟行を行いました。梅田先生はご家庭の事情で不参加でしたが、秋の日ざし眩しい好天に恵まれ一行10人古河駅を十時に出発、歴史のある町で二階のある白壁の土蔵などを通り過ぎ最初の場所大聖院へ、人の気配もなく静かで門をくぐると大きな櫓があり、お堂の前で道元の像が光に浴びておりました。蟬の鳴き声を聞きながら鷹見泉石の武家屋敷に到着、涼しく秋の風が出迎えてくれました。ゆっくり散策して周り、一息つき次の場所永井路子の生家、最後に正定寺階段の所で最後の写真を撮り昼食へ、盛りだくさん見て回った吟行となりました。会場を移し句会となりました。3句を投句し、選句、披講しました。来月の兼題は「名月」「今日の月」です。(市川三重子 記)

梅田博先生の句

永井路子生家きらめく武部の実武家
屋敷新涼の風押し通り
甘露煮屋十三代の秋のれん



9月の句(5名自薦の句)

筑波より秋風降りて蔵の街	石井一好
屹立の竹を彩る曼殊沙華	久保田圭子
秋風や城堀よりの子等の声	瀧澤正高
竹の春一葉くるりと風に舞ふ	野良テル
飛石の踏む足音や秋の風	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 8 4

平成29年10月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生はご家庭の事情で参加できず、投句いただきました。秋たけなわのシーズンの為、皆さん行事があつたり連日の雨の影響もあり、参加は6名、欠席投句4名の句会となりましたが、机をコンパクトにまとめ定刻に和気あいあいと始まりました。全員5句を清記の後、いつも通り5句を選句して披講に入るも作者誰?誰?投句だよ、えー私だった!と盛り上がる。披講の後には気軽な書評や質問が飛び交うなど緊張感に欠けるも楽しい時間を過ごしました。最後に瀧澤さんから次回11月21日上尾・徳星寺吟行の説明、部長から12月19日の句会と忘年会(蓮田)予定の説明があり、参加者全員が了承しお開きとなりました。(蔦川忠義 記)

梅田博先生の句

県境の大河名月上りくる
十六夜のワイングラスにロゼ満たし
鶏頭の強気ならざるものはなし

10月の句(6名自薦の句)

雲切れし名月夫と仰ぎけり	市川三重子
名月の雲を屏風に化粧せる	大森 勇
こほろぎのか細き声や昼の庭	高橋幸子
飽きもせず蜜にまつはる秋の蝶	蔦川忠義
晩酌や酸橘の香りいとしめり	瀧澤正高
百本の秋ばら贈り寿(トシ)祝ふ	野良テル



俳句遊クラブ活動報告 8 5

平成29年11月21日(火)、俳句遊クラブは上尾に吟行に行きました。丸山公園に10時集合、自然学習館を見学してから畔吉河岸跡、榎本牧場、徳星寺まで散策しました。梅田先生も2か月ぶりに遊クラブに参加され総勢9名でした。風は強かったものの快晴で、富士山も連なる山々も荒川の向こうにくっきりと見えました。畔吉河岸は列車のなかった時代には大層繁栄していたようですが今はその面影もありません。その後榎本牧場で牛舎の牛が餌を食べている様子や7月に生まれたというミニブタの子供5匹が身体を寄せ合っている可愛い姿を見た後、美味しいジェラードを皆で頂きました。最後に徳星寺に立ち寄りましたが银杏黄葉が陽射しに煌いていてそれは見事でした。また寺の裏には巨大な大櫃が大地を驚掴みにするように聳えており、こちらは県の天然記念物とのことでした。楽しかった吟行を終え、丸山公園に戻って車で昼食会場である華屋与兵衛上尾店に行き、昼食後句会会場である大谷公民館に移動しました。そして各自3句を投句し、選句、披講しました。来月は12月19日(火)に県活で句会、その後恒例となっている蓮田の彩々楽で忘年会の予定です。兼題は「霜一切」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

まゆみの実輝きるたる古刹かな
二羽といふ良き数鴨の進みくる
メタセコイア黄葉天へと仁王立ち



11月の句 (5名自薦の句)

银杏黄葉金貨ふりまくごときかな	新井真弓
どこまでも空の青さや银杏散る	石井一好
冬晴れや分婉近き牛の立ち	市川三重子
枯尾花風吹くのみの河岸場跡	久保田圭子
敗残の兵士のごとく破れ芭蕉	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 8 6

平成29年12月19日(火)、俳句遊クラブは県活で今年最後の句会を行いました。遊メンバーのお二人がご家庭の事情で退会されることになり、梅田先生を入れて総勢8名でした(一人欠席)。人数が減って少し寂しくなりましたが、梅田先生から「少数精鋭ということで行きましょう」とのお言葉がありましたので、来月からも皆で研鑽を積み頑張っていきたいと思えます。兼題の「霜一切」を含む3句を投句し、選句、披講しました。句会の後17時から恒例となっている蓮田駅前の「彩々楽」で忘年会を行いました。8名参加でしたがお互いの顔が良く見えて全員で話すことが出来、和気藹々と美味しい懐石料理を頂きながら楽しい忘年会となりました。梅田先生から「俳句クイズ」が出され、成績に関係なくジャンボ宝くじ1枚と俳句が上手くなるようにということで鉛筆3本を全員が頂戴しました。来月は1月16日(火)、県活で句会の予定です。兼題は「初御空」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

がっちりと肩組みて山眠りけり
目礼で済ます交はり霜日和
無人掃除機ぐるぐる勤労感謝の日

12月の句(4名自薦の句)

黄や赤に染まる水面や落紅葉	大森勇
虎落笛風も苛立つ夜の町	瀧澤正高
さざ波のごとく煌く畑の霜	葛川正義
冬紅葉残る一葉の震へをり	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 8 7

平成30年1月16日(火)、俳句遊クラブは県活で初句会を行いました。梅田先生を入れて総勢8名でした(一人欠席)。最初に梅田先生から「新年・冬の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。吉野正一さんの「無口では非ず独りや寒椿」という句がありました。人から無口だと言われている作者は本当は無口ではなく、独り暮らしのため話すことがなく無口になってしまったらしいという句で寂しさが伝わります。その後「兼題の「初御空」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は2月20日(火)、県活で句会の予定です。兼題は「冴返る」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

不機嫌な貌を向けくる寒鴉
初御空群鳩一系乱れざる
賽銭のからりと鳴って初詣

1月の句(3名自薦の句)

御くるみの中の子犬や初詣	新井真弓
おみくじに小さな笑顔初御空	市川三重子
この堅き決意幾度初御空	大森 勇



俳句遊クラブ活動報告 8 8

平成30年2月20日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を入れて総勢9名、全員の参加でした。最初に梅田先生から「春の秀句を学ぶ」ということで講義がありました。鷹羽狩行さんの「末黒野といふ白昼の闇に行く」という句がありました。末黒野は次に良い芽が出るように畑や野原を焼いた野原や畑のことをいいます。その末黒野に立った作者は真っ黒な末黒野が白昼の闇のように感じたというその発想が素晴らしい。いかに発想が大事であるかを教えてくれる一句でした。その後兼題の「冴返る」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は3月20日(火)、大宮氷川神社、大宮公園で吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

白樺の幹しろじろと冴返る

春の鯉さきざきの水光り

春風にかるがると乗りフリスビー

2月の句(3名自薦の句)

蟄居せる流感の子に本送る	蔦川忠義
スリッパを履かず廊下へ冴返る	久保田圭子
梅古木白くいとしく咲き初むる	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 89

平成30年4月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を入れて総勢7名(欠席投句1名)でした。今月から島田千恵さんが遊クラブに入会されました。自己紹介をして頂いた後、早速句会に入りました。兼題の「桜餅」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は5月15日(火)、大宮氷川神社、大宮公園で吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

しろがねの光こぼせる大牡丹

まだ読まぬ新刊本とさくら餅

春風邪や訳の分からぬ夢を見て

4月の句(3名自薦の句)

窓開けて心地よき風初燕 新井真弓

居合刀一瞬止めて桜舞ふ 大森 勇

初めての伝ひ歩きや桜餅 久保田 圭子



俳句遊クラブ活動報告 90

前回雨で中止になった吟行を、5月15日(火)、前回の計画と同じ風薫る大宮氷川神社と大宮公園で行いました。先生を含め総勢8名でした。日差しに厳しさもありましたが、木陰に入れば、爽やかな吟行日和でした。10時大宮駅に集合し氷川神社まで歩き、先生から季語の話、作句上の注意事項などの話があり12時15分「埼玉県立歴史と民族の博物館」集合ということで各自吟行を開始しました。氷川神社参拝、大宮公園、公園内の動物園などでそれぞれ名句を詠み「私の句こそ!!」と皆さん意気込みながら目的地の博物館に向かいました。博物館に予定通り集合し館内にて各自食事をとった後、同じ館内の150人利用可能な大きな部屋を8人で占領し句会を行いました。句会はいつものように和気あいあい、笑いあり嘆き(?)あり終始楽しい句会となりました。なお次回の句会は県活にて6月19日(火) 兼題は「夕立・白雨」です。(大森勇 記)

梅田博先生の句

神楽殿涼風罷り通りけり
炎暑かな山羊の細かき糞匂ひ
掃除婦の竹の落葉をわしづかみ



5月の句 (3名自薦の句)

片かげり乳母車の吾子まどろみぬ	市川三重子
大緑陰風と戯れ本を読む	島田千恵
新樹燃ゆ風に色あり氷川様	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 9 1

平成30年6月19日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢8名でした。梅田先生から夏の秀句を学ぶということで講義がありました。「青梅のにがみのほどの好敵手」という句がありました。鈴木節子さんという「門」をご主人から引き継がれて主宰をしている方です。青梅が季語ですが、主役は季語の青梅ではなく好敵手。その好敵手を青梅の苦みのほどと表現しています。こういう季語の使い方を是としない結社もあるとのことですが、こういった表現もあるのではないかというお話でした。その後句会にうつり、兼題の「夕立・白雨」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は7月17日(火)に県活で句会の予定です。兼題は「極暑」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

屋敷林ゆさぶり止まぬ白雨かな
緑蔭や自在に回る車椅子
すっきりと水の行間大植田

6月の句(3名自薦の句)

夕闇や白さ際立つ半夏生	市川三重子
自転車を追ひ越し駆くる夕立中	大森 勇
時の日や人生五十年ならざりし	蔦川 忠義



俳句遊クラブ活動報告 9 2

平成30年7月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名でした。通学のため昨年1年間休部していた鈴木清子さんが今月からカムバックされました。最初に梅田先生から夏の秀句を学ぶということで講義がありました。「黄泉といふ遙けさちかさ合歡の花」という句がありました。松永典子さんの句です。合歡の花を詠んだ句は多くあっても黄泉に例えた句はありません。この作者の鋭い感覚を感じさせる言葉で、このように自分ならではの表現が良い句を産むことになるということでした。その後句会にうつり、兼題の「極雨」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は8月21日(火)に県活で句会の予定です。兼題は「雲の峰」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

緊張を一日解かず百合の花
極暑来て仰ぐや聖人殉教図
天地を慈しむかに蓮の花

7月の句(3名自薦の句)

被災地になおのしかかる極暑かな	新井真弓
雨音や露煮る母の指黒き	島田千恵
酷暑とてギプス一枚外しけり	鈴木清子



俳句遊クラブ活動報告 9 3

平成30年8月21日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢7名でした(欠席投句2名)。今日は人数が少ないので俳句クイズをしましょうということで19問の俳句の中の隠された1語を考えるクイズで、1問ずつ順番に答えを披露しました。その後句会にうつり、兼題の「雲の峰」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は9月21日(火)に王子の名主の滝へ吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

花木権会はねば人は忘れられ
たくまき予科練生像雲の峯
秋風の真っ只中の帆かけ舟

8月の句(3名自薦の句)

大波を狙ふサーファー雲の峰	久保田圭子
職人を誇れる父や雲の峯	島田千恵
学食の薬膳カレー夏惜しむ	鈴木清子



俳句遊クラブ活動報告 9 4

9月18日(火)王子・名主の滝を吟行しました。今回は体調を崩し半年間お休みしていた瀧澤さんが復帰され、秋日和に恵まれた賑やかな吟行になりました。王子駅に10時総勢9名が集まりスタート、徒歩1・2分で音無親水公園(石神井川旧流路)に到着、景色は一変新涼の気配となる。先ず梅田先生より吟行のポイントは感じたことを素直にと教えを頂きました。公園からエレベーターで上がると直ぐに王子神社(熊野信仰)の大きな鳥居と奥に立派な社殿があり、音無川の由来などが分かる。次に故田中総理大臣の揮毫ある中央工学校を抜けて、王子稻荷神社へ。関東八州稻荷神の総社だけあり見どころあり幼稚園もありと題材は豊富。そして目的地の名主の滝公園へ到着、都会の喧騒を忘れる滝音と色鳥の声が森の静けさを引き立てます。とは言え吟行の楽しみは昼食にあり、今回は各自お弁当持参で公園内の句会場「先心亭」和室で頂き、食後に途中の和菓子屋で買った名物?狸最中もそれなりに結構でした。午後の句会は、題材豊富で秋の思いが表現様々に披講され大いに勉強になりました。句会後に全員で記念写真を撮り、才能有も才能無も吟行ならではの心地よい疲れと開放感に浸りつつ、帰路につきました。来月は10月16日(火)県活で句会の予定です。兼題は十三夜・後の月です。(蔦川忠義 記)

梅田博先生の句

初鴈やこの力石擡げんと
森昏き中みんなの絶唱す
名にし負ふ名主の滝の爽気かな

9月の句(3名自薦の句)

新涼や名主の滝の水の音
ご神鏡実りの秋のあふれをり
風の私語水の音聞き秋うらら

瀧澤正高
蔦川忠義
山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 9 5

平成30年10月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢10名でした。梅田先生の句が毎日新聞の俳壇に掲載されました。選者は鷹羽狩行さんで、何と特選と入選の2句が同時に掲載されるという快挙でした。蔦川部長が毎日俳壇をコピーして配布して下さったので下記します

特選句★法師蟬そんなにむきにならずとも

入選句★花木槿この角いつも右へ行き

大森さんから来月の吟行場所である深川・清澄庭園の説明を受け、その後句会にうつりました。兼題の「十三夜・後の月」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は11月20日(火)に清澄庭園へ吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

心こめ記す返信十三夜

開け放つ二階の書斎小鳥来る

初鴈のするどく我を叱咤せり

10月の句(3名自薦の句)

まだ癒えぬ身を持て余し秋霰雨 新井真弓

秋高し空へ飛び出すモトクロス 鈴木清子

やんわりと色ちりばめて星月夜 瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 96

平成30年11月20日(火)、御徒町駅9時30集合。総勢8人大江戸線に乗り換え清澄白河駅到着。清澄公園へ。梅田先生が待っておられちょっと肌寒いが晴れて吟行日和でした。約一時間半思い思い名石や松池を眺めながら磯渡りや外人観光客向けの花嫁姿の Couples 撮影。深川の芸奴さんにも出会い、色々吟行の材料は沢山ありましたが……。庭園を出て記念撮影。次の採茶庵跡へと10分で到着。芭蕉の旅姿の座像に触れさせていただき仙台堀川沿いの散歩道を行くと芭蕉の句を拝読して歩きました。晩秋の日を浴びながらに20分で芭蕉史跡展望庭園・記念館到着。ここで昼食、句会。森下駅より帰途。来月は12月18日(火)県活で句会。兼題は「数へ日」です。その後蓮田の彩々楽で忘年会の予定です。(市川三重子 記)

梅田博先生の句

冬うらら鯉に混りて亀も寄る
隅田川大きうねる初冬かな
敵といふ敵なくしづか鴨の陣



11月の句 (3名自薦の句)

俳聖の旅立つ庵の冬木立	大森 勇
雪吊りの松凜とせる景をなし	島田千恵
どの鴨もV字の波形残しをり	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 9 7

平成30年12月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名でした(欠席投句1名)。今日は忘年会のためいつもより30分早く句会を開始し、兼題の「数え日」を含む3句を披講、選句しました。17時から毎年恒例の蓮田の彩々楽で忘年会を行いました。梅田先生から「俳句クイズ」が出題され、皆頭を抱えて取り組みました。例年通り温かな雰囲気のと和気藹々とした忘年会でした。来月は1月15日に県活で句会の予定です。兼題は「初湯」「初湯殿」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

大空を一闪し座流星群
鮫鯨のあきらめきつたる眼かな
数へ日の小窓より買ふ宝くじ

12月の句(3名自薦の句)

穴あきも模様の一つ柿落葉	鈴木清子
数へ日のまだ手つかずの書棚かな	瀧澤正高
風を行く枯れし银杏の踊るみち	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 9 8

平成31年1月15日(火)、俳句遊クラブは県活で今年初めての句会を行いました。梅田先生を含め総勢8名でした。(欠席投句2名)最初に梅田先生から「俳句上達のポイント・冬の秀句を学ぶ」という講義がありました。大牧広さんの「節料理三三五五と残りたる」という句がありました。お正月のお節料理はどこの家でもきれいに食べつくすということではなく、その残っている様子を三三五五と表現したものです。料理の残り物を三三五五と表現した感覚が素晴らしいとのことでした。その後句会にうつり兼題の「初湯・初湯殿」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は2月19日(火)に県活で句会の予定です。兼題は「春近し」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

しばらくは思ひ深むる初湯殿

紅白の力尽せる寒牡丹

裂帛の声のするどく寒稽古

1月の句(3名自薦の句)

冬の蠅幼子ぱっと捕らえけり	新井真弓
A I はどこまで進む冬銀河	市川三重子
源泉を謳ふ銭湯初明かり	久保田圭子



俳句遊クラブ活動報告 9 9

平成31年2月19日（火）俳句遊クラブは、県活で梅田先生を含め総勢8名（欠席投句2名）による月例会句会を行いました。冒頭に2班より3月の蕨吟行の案内を説明し、夕方から学童へのボランティア活動に行かれる方もあり、速やかに句会を始めました。今回の季題一句は「春近し」です

梅田博先生の句

土に字を大きく書く子春近し
やさしさは雲のみならずクロッカス
まんさくやいまだ冷たき山の風

2月の句（4名自薦の句）

気まぐれに路地から路地へ春隣り	島田千恵
母子してテニススクール春近し	鈴木清子
底冷えの通夜や遺影の叔父の笑む	瀧澤正孝
ポロポロンウクレレレッスン春近し	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告100

絶好の吟行日和に恵まれた平成31年3月19日(火)、日本一面積が狭い市として、あるいは成人式発祥の地として有名な蕨市を吟行しました。10時に蕨駅に総勢9名が集合し、先ず金亀山三学院へ、本堂・阿弥陀堂・三重塔など壮大な規模に圧倒されました。庭の山菜萵の花や彼岸桜も見事な風情を醸し出しています。六地藏や目疾地藏にお参りした後、中山道蕨宿・歴史民俗資料館を經由し、最終吟行地「和楽備神社」に到着、和楽備神社は室町時代に築かれた蕨城の守り神として祭ったのが始まりとされている。お腹もすいたところで近くのイタリアンで昼食、サラダ・コーヒー付きのランチを楽しみ、そこから徒歩1・2分の蕨市民会館会議室で句会を行いました。

★今回の吟行地は、コンパクトながら題材豊富で各自の思いと表現が様々に披講され、吟行ならではの臨場感ある楽しい句会となりました。その後、皆で新年度の精進を誓い、心地よい疲れと開放感に浸りつつ帰路につきました。4月の兼題は「松の芯」、5月の吟行は大宮「盆栽村」です。(文・蔦川、写真・瀧澤)

梅田博先生の句

中仙道のどけし薬屋煎餅屋
うららかや仏足石に鳩が乗り
楠大樹見上げ春愁深まれり



3月の句 (3名自薦の句)

春うらら小さき町に大伽藍	島田千恵
あたたかや目疾地藏に願を掛け	新井真弓
しろがねの光のあふれ新芽立つ	市川三重子



俳句遊クラブ活動報告 101

平成31年4月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名(欠席投句1名)でした。平成最後の句会です。最初に俳句上達のポイント「春の秀句に学ぶ」ということで梅田先生から講義がありました。その中に「塔に飛花羅漢に落花しきりなる」という園部知宏さんの句がありました。桜が盛んに飛び散ることを飛花落花と言います。この句はお寺の桜が散っている情景を詠んだもの。典型的な写生句ですが高いところにある塔へ飛ぶ花、低いところにある羅漢へは落花とよく詠い分けているところが上手いとのことでした。兼題の「松の芯」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は5月21日(火)に大宮の盆栽村へ吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

梨の花空のうるみて来たりけり
花粉症いちにち家に籠る妻
初桜キャッチボールの音高く

4月の句(3名自薦の句)

チューリップ夢いっぱいランドセル	大森 勇
高らかに選手宣誓緑立つ	久保田圭子
花行脚夢で出会ひし母と行く	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告102

令和元年6月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢7名(欠席投句3名)でした。5月は大宮の盆栽村に吟行の予定でしたが、生憎嵐のような天候で中止となったので2か月ぶりの句会となりました。最初に俳句上達のポイント「夏の秀句に学ぶ」ということで梅田先生から講義がありました。その中に「汗し食ふほうとう甲斐の夏もよし」という原教正さんの句がありました。山梨の名物であるほうとうは熱々のものを汗をかきながら食べるのが特に美味い。山梨へ旅した作者が名物のほうとうを食べ夏を楽しんでいる様子が良く描かれている佳句とのことでした。厳密に言えば「汗」と「夏」は季重なりになりますがこの句の場合は問題ないとのことです。その後句会となり兼題の「梅雨一切」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は7月16日(火)に県活で句会の予定です。兼題は「涼し」です。
(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

梅雨寒の地に散らばれる野鳩かな

青胡桃力こもりて来たりけり

雉子(キギス)鳴き武蔵野の空明けきたる

6月の句(3名自薦の句)

背表紙を眺めるだけの梅雨ごもり	大森 勇
白南風や鱒浅くゆく放水路	鈴木清子
父の日やバーボンのこれストレート	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告103

令和元年7月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名(欠席投句1名)でした。兼題の「涼し」を含む3句を投句し、選句、披講しました。梅田先生は、今年は今のところ冷夏で現時点では「涼し」の感覚には遠かったかもしれないと仰っていました。来月は8月20日(火)に県活で句会の予定です。兼題は「向日葵」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

鎌倉の神仏とても梅雨じめる

田山花袋旧居涼しき通し土間

ふてぶてしき武州育ちの茄子の紺

7月の句(3名自薦の句)

ためらひて出さざる文や合歓の花 島田千恵

廃校が老人ホームにカンナ咲く 鈴木清子

新茶汲む茶の間に母の在し日よ 山田泰子



俳句遊クラブ活動報告104

令和元年8月20日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢8名(欠席投句2名)でした。最初に「俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶ」ということで梅田先生の講義を受けました。その中に「鳴きだして重たくなりたる虫の籠」という村上喜代子さんの句がありました。お盆が過ぎてもう虫が盛んに鳴きだしています。この句は鳴く前は虫籠が軽かったのに鳴きだしてから持ってみると重たく感じたと言っています。それだけ虫の声に重みを感じているということで自分の感覚を素直に句にしているところが良いとのことでした。俳句を作る人は季節の変わり目に敏感でその移ろいを詠む人が多いとのこと、私達も見習わなくてはと思いました。次に兼題の「向日葵」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月は9月17日(火)に鶯谷駅で待ち合わせ、子規庵に吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

子ら三人見送り仰ぐ盆の月
雲の峯一途に生きねばと思ふ
仰ぎ見る向日葵笑ってはをらず

8月の句(3名自薦の句)

こめかみのずきんずきんと極暑の夜	市川三重子
愚痴ひとつ大向日葵に言ふてみる	大森 勇
日々酷暑古希の老老介護かな	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告105

令和元年9月17日(火)、前日の雨から一転日陰を選んで歩くほどの吟行日和に恵まれました。10時上野駅公園口集合が電車のトラブル等あるも程なく10名全員がそろい、雲の峰の下、子規球場で梅田先生から沢山の季語を教わりスタート。花園稲荷神社から不忍池におり駅伝発祥の碑に驚く。(大正6年京都三条大橋から上野・不忍池終点514キロメートルを昼夜徹して3日間で走りぬく、まさにイダテン)蓮の葉に覆いつくされた不忍池を回って男坂か女坂と湯島天満宮へ、白梅や受験の時期でもなく静かな境内で思い思いの句作に励む。本殿前で記念写真を撮り、暑い暑いと待望の昼食会場に向かう。涼しいホテルレストランでのランチとサラダバー・飲み物でゆったり寛ぐ。食事後は近くの台東上野区民館の和室で句会を行いました。吟行なので同じ場所を詠んだ句が幾つもあるが、それぞれに見ること感ずることが違う、これが吟行の楽しさでもあり切なきことでもありと実感する。先生の教えの毎日が吟行と思ひ励むしかないと、途中で買った「うさぎや」のどら焼きを食べお開きとしました。句会場から駅に向かう不忍池では、こう詠めば良かったなど新しい句も出て、それは賑やかな帰路となりました。(文・蔦川、写真・瀧澤)

梅田博先生の句

天神に恋のみくじや秋うらら
蓮の葉不忍池を埋め尽く
雲の峰悠々子規球場の上



9月の句(3名自薦の句)

駅伝の発祥の地や雲の峰	新井真弓
海原のごとき蓮の葉浄土かも	蔦川忠義
秋風や天神の絵馬幾重にも	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告106

令和元年10月15日(火)俳句遊クラブは県活で梅田先生を含む総勢6名(欠席投句3名)による月例句会を行いました。冒頭に2班より11月の両国周辺吟行についての説明がありました。梅田先生の「俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶ」では、「葡萄ひとつぶ指先の記憶力」倉持梨恵さん(42歳)の句があり、葡萄に触れた指先の記憶に焦点を当てたところが素晴らしいと称され、高齢になっても己の五感を磨かねばと教わり実感しました。句会は兼題「十三夜・後の月」を含む3句を提出し、選句、披講まさに秋らしい句会となりました。いつもながら先生の直しや解説に得心しながら句会を終了しました。11月19日の吟行は10時JR両国駅西口集合です。(蔦川 記)

梅田博先生の句

老妻の今は細身に十三夜
十三夜シヨパンに耳を傾けぬ
女神像指さす空や鳥渡る

10月の句(3名自薦の句)

ラグビーのハカの地響き天へまで
つつましく祀りて美しき十三夜
月へなぞ行かぬと決めて十三夜

新井真弓
山田泰子
蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告107

11月19日火曜日、出席者8名で旧安田庭園、東京都慰霊堂、復興記念館、北斎美術館を見学しながら吟行を行いました。楽しみはお昼のちゃんこ鍋でした。それぞれしっかり食し、その後そこで句会となりました。両国界限、冬のはじめにしてはあたたかく良い日でした。(文・新井真弓、写真・瀧澤正高)

梅田博先生の句

老冬紅葉一樹炎上してゐたり
それとなく寄り来る鳩や園小春
北斎の白波に酔ふ小六月



11月の句 (3名自薦の句)

逆さビル水面に揺れて冬日和 大森 勇
石砂利は幾何学模様冬日照る 久保田圭子
ゆったりと石に乗る亀小春空 瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告108

令和元年12月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。今年最後の句会です。梅田先生を含め総勢7名(欠席投句1名)でした。今日は句会の後に忘年会の予定なので講義はなく、兼題の「日記買ふ」を含む3句を投句し、選句、披講しました。句会の後に恒例となった蓮田の懐石料理屋「彩々楽」で忘年会をしました。(8名参加)梅田先生からこれも恒例となった「俳句クイズ」が出され皆頭をかかえて取り組みました。丁度良い人数で皆と一緒に話が出来、なごやかに和気藹々と楽しい忘年会となりました。ここまで俳句を続けてこられたことに感謝し、来年も頑張ろうと誓い合いました。来月は1月21日(火)に県活で句会の予定です。兼題は「七日粥・七草粥・七種粥」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

老生きさまを子に伝へんと日記買ふ
「あるもので食べて」とメモや年の暮
冬薔薇晩節汚してはなら

12月の句(3名自薦の句)

冬ざれやくはへ煙草の女ゆく	新井真弓
家々も木々も森閑冬満月	市川三重子
夫逝くや庭のつつじの狂ひ咲き	久保田圭子



俳句遊クラブ活動報告109

令和2年1月21日(火)、俳句遊クラブは県活で今年初めての句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名でした。最初に俳句上達のポイント・春の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「薄氷の吹かれて端の重なれる」という深見けん二さんの句がありました。虚子に学んだ客観写生の底力を感じさせる句で、薄氷の例句として必ず引用される位有名な句とのことです。薄氷は4音で詠む場合は「うすらひ」5音で詠む場合は「うすごおり」と読みます。続いて兼題の「七日粥・七草粥・七種粥」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は2月18日に県活で行います。兼題は「日脚伸ば」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

家長の座六十年や七日粥
成人日天地輝く日となりぬ
しまひには皆で肩組み新年会

1月の句(3名自薦の句)

追い焚きの二度目となりしゆず湯かな	大森 勇
縫初や母の指貫すぐ馴染む	島田千恵
吠ゆるごとエイトビードの冬ライブ	蔦川忠義



俳句遊クラブ活動報告 1 1 0

令和2年2月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名でした。最初に俳句上達のポイント・春の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「こころもち向き合ふやうに雛飾る」という仁平勝さんの句がありました。この句からは内裏雛を想像する、夫婦と思われるのに見合うこともなく前を向いているので少しは向き合わせるようにと雛を飾ったということで、作者の優しさがうかがわれる一句とのことでした。続いて兼題の「日脚伸ぶ」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は3月17日(火)に越谷の花田苑に吟行の予定です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

帰り来て玄関の黄のチューリップ
梅真白老いに一念ありにけり
二重跳び緑り返す子や日脚伸

2月の句(3名自薦の句)

凍星や亡夫の愛せしバツハ聴く 久保田圭子
バス停の時刻確認春ショール 鈴木清子
梅古木いとしき増せる香りかな 山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 1 1 1

俳句遊クラブは令和2年3月18日(火)に越谷の久伊豆神社と花田苑へ吟行の予定でしたが、コロナウィルスの感染が拡がっていることから中止することにしました。来月の句会は4月21日(火)の予定で兼題は「春愁」です。(久保田圭子 記)

俳句遊クラブ活動報告 1 1 2

令和2年4月21日（火）に俳句遊クラブは県活で句会の予定でしたが、新型コロナの感染拡大に伴い施設の利用が出来なくなったため「通信句会」を行いました。メンバーの句（兼題を含め3句）を蔦川部長が取り纏め、梅田先生宛に送って講評と添削をお願いしたものです。皆が集っての句会ではありませんでしたが、先生がメンバーの全ての句に丁寧に講評、添削を下さり大変勉強になりました。本当に有難うございました。また取り纏めの労を担って下さった蔦川部長にも感謝申し上げます。来月も通信句会で5月18日迄にメンバーが蔦川部長宛に3句を送る予定です。兼題は「薫風・風薫る」です。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

竹馬の友筍どすんと持ち来たる
田の水のにぶく光れる穀雨かな
春愁ひ道中日記まだ読めず

4月の句（3名自薦の句）

チューリップコロナ尻目に咲き誇る	新井真弓
罫やバーベキュー場人見えず	市川三重子
逝く春の怖さ広がるパンデミック	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 1 1 3

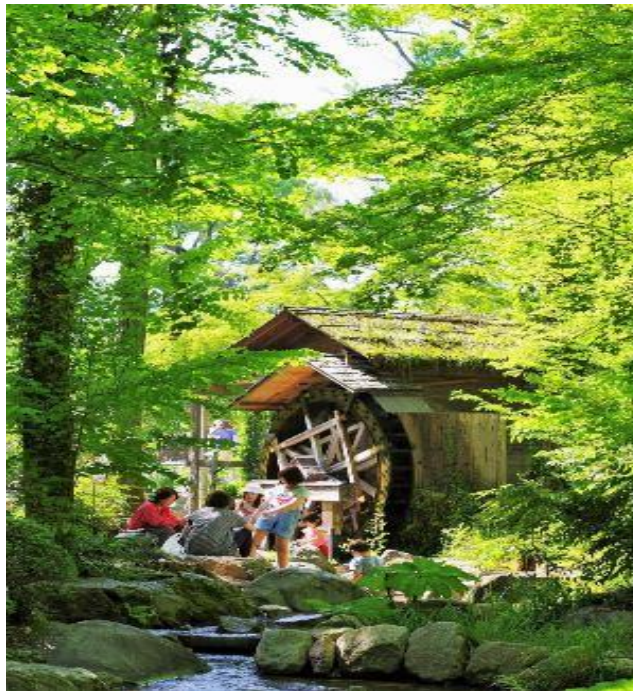
俳句遊クラブは令和2年5月19日（火）に県活で句会の予定でしたが、まだ自粛中なので先月に引き続き「通信句会」を行いました。メンバーはやる気満々なのか暇なのか？今月も全員が参加しました。蔦川部長が全員の句（兼題の風薫風・風薫るを含め3句）を取り纏め、梅田先生宛に送って講評と添削をお願いして下さいました。来月も通信句会の予定ですが状況によって本句会が出来るかもしれないと期待しています。コロナが早く収束してくれることを祈るばかりです。来月の句会は6月16日（火）の予定です。兼題は「緑陰」です。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

茄子の花目立たぬやうに咲きはじむ
一つとは物足らぬ数柏餅
明易し豆腐屋に人動く影

5月の句（3名自薦の句）

子らの居ぬ学舎しずか風薫る	大森 勇
露をむく一本毎の香りかな	蔦川忠義
竹の径一直線に風薫る	島田千恵



俳句遊クラブ活動報告 1 1 4

令和2年6月16日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。社会的距離をとるということで大きな部屋に変更し、4か月ぶりに一同に介して句会行うことが出来ました。全員が出席総し総勢10名でした。2か月間の通信句会もよかったのですが、やはり仲間の顔を直接見ながらの句会はいいものだと思います。最初に俳句上達のポイント・夏の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「夏きざす塔に白雲近づけば」という保坂敏子さんの句がありました。夏の到来を待つという作者の思いが伝わってくる。眼前の塔に白雲が近づいてくる、そのことに夏の来ることを作者が実感したというスケールの大きい句で初夏の景観への賛歌でもあるとのことでした。続いて兼題の「緑陰」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は7月21日(火)に県活の会議室で行う予定です。兼題は「炎暑」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

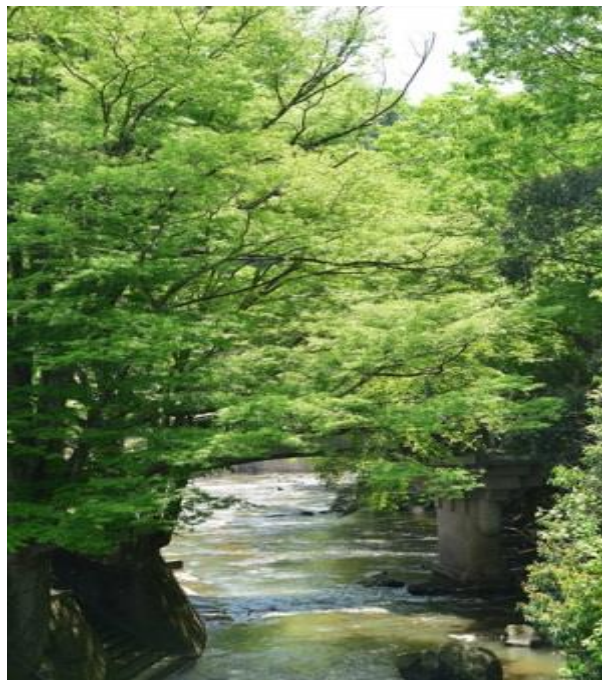
朝風におほらかに揺れ蓮浮葉

天崇むごとくに泰山木の花

緑陰に集合の笛ひびきけり

6月の句(3名自薦の句)

緑陰やスーザーホンを響かせて	市川三重子
落ちてなほ褪せぬ朱色や花柘榴	久保田圭子
緑陰のランチにテラス席選び	鈴木清子



俳句遊クラブ活動報告 1 1 5

令和2年7月21日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。今回は県活の会議室の規制が緩和されたのでいつもの部屋での句会となりました。総勢9名(欠席投句1名)でした。コロナの感染者がまた増加していることから、取り敢えず今年は吟行を中止し、県活の会議室で句会を行うこととしました。最初に俳句上達のポイント・夏の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「断崖を墓標としたり沖縄忌」という仙田洋子さんの句がありました。太平洋戦争で亡くなった人々を慰霊する沖縄忌は6月23日。追い詰められた住民達が絶壁から身を投げる映画のシーンはあまりにも残酷で目に焼き付いて離れない。その断崖が墓標であるという作者の思いは芯から納得させられる、平和の大切さを改めて思わせる一句ということでした。続いて兼題の「炎暑」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は8月18日(火)に県活の会議室で行う予定です。兼題は「西瓜」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

老僧のみじろぎもせぬ炎暑かな
よき風を待ち鶯草の羽ひろげ
疑へることなき嬰の目の涼し

7月の句(3名自薦の句)

蓮の葉や太古の風のあればこそ	新井真弓
車庫にバス眠りしままや炎暑くる	蔦川忠義
納屋の奥静かに眠る梅酒瓶	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 1 1 6

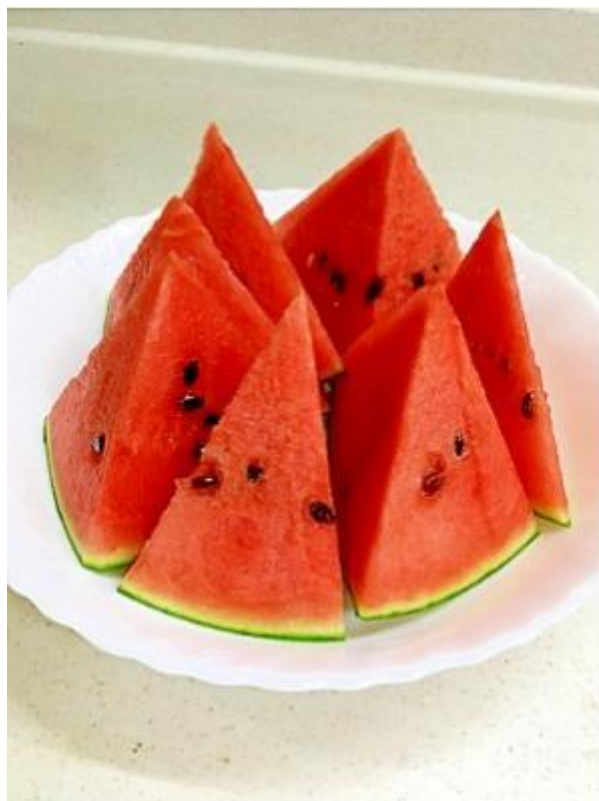
令和2年8月18日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。猛暑の中でしたが全員参加で総勢10名でした。コロナの感染拡大が止まりません。おまけにこの猛暑で熱中症も多く大変な夏となりました。我々高齢者は特に体調に気をつけこの夏を乗りきるよう心掛けたいと思います。最初に俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「鳴きだして重くなりたる虫の籠」という村上喜代子さんの句がありました。虫籠は中の虫が鳴こうが鳴くまいが重さは変わらないというのが一般的な常識ですが、作者はそのことに納得せず虫が鳴きだすと重く感じたという一句です。常識を承知しないところから句を作ろうとする姿勢を学びたいと思いました。続いて兼題の「西瓜」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は9月15日(火)に県活の会議室で行う予定です。兼題は「秋高し・天高し」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

はつ秋の洗ひぎらしの空仰ぐ
炎天下郵便バイク突っ走る
包丁の抜き差しならぬ大西瓜

8月の句(3名自薦の句)

姉からの丹精込めた西瓜かな	市川三重子
底紅や母の針刺し小袖留め	島田千恵
縁側や孫と二人で西瓜食む	瀧澤正高



俳句遊クラブ活動報告 1 1 7

令和2年9月15日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢9名でした(欠席投句1名)。9月も中旬となりやっと朝晩は涼しくなりました。今年は梅雨の長雨、猛烈な暑さ、各地での豪雨や台風など自然災害が多かったように思います。日本だけではなく世界中が異常気象のようで確実に地球がおかしくなっていると感じます。何とか温暖化を食い止めるよう各国で工夫して欲しいと切に祈っています。鈴木清子さんが来月から半年間句会を欠席されることになりました。来年の4月からまた一緒に活動出来ることを楽しみにしています。

最初に俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「萩の花乱れて色を深めけり」という戸成了晟さんの句がありました。俳句は写生に始まり写生に終わると言われるもので、この句は写生が大事であることを思わせる一句とのことでした。秋の七草のひとつが萩の花、紅白があるが紅色の萩のほうが多くみられよく風に吹かれて乱れ咲きしていることが多い。そうして乱れながらも色を深めていることを詠っていてとても素直な写生句であるがよく萩を観察して作った句だということでした。続いて兼題の「天高し・秋高し」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は10月20日(火)に県活の会議室で行う予定です。兼題は「新米・今年米」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

ちちろ鳴くいつしか人の住まぬ家
ちよこちよことダックスフンド天高し
ゆれてまた風呼ぶ風船かつらかな

9月の句(3名自薦の句)

とんぼうに悪さし頃を今に詫び	大森勇
一席を知らせる便り天高し	久保田圭子
スケッチの川の畔や秋高し	鈴木清



俳句遊クラブ活動報告 1 1 8

令和2年10月20日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢8名でした(欠席投句1名)。10月に入り寒さを感じるほどの陽気となりました。寒暖の差が激しい上、コロナもあるので体調管理に気を付けたいと思います。また耳が少し遠くなったという方が続出して我々の年齢は確実に上がったことを再認識しました。最初に俳句上達のポイント・秋の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「キャッシュカード我が名の突起冷たしよ」という森下秋露さんの句がありました。まさに現代社会の一端を切り取った句でキャッシュカードの突起に目をつけた作者。触ると冷たい。アナログではなくデジタルの社会の冷たさを感じる句であるとのことでした。こんな身近かなものでも俳句は作れるということを教わりました。続いて兼題の「新米・今年米」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は11月17日(火)に県活の会議室で行う予定です。兼題は「冬に入る・立冬・冬立ちぬ」です。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

通草の実つると風の撫でゆけり
秋田小町てふ名に惚れて今年米
そぞろ寒一日にして家毀す

10月の句(3名自薦の句)

東の間の楽園となりいわし雲	新井真弓
バーベキュウ締めは新米塩むすび	市川三重子
木の幹を登り切ったる蔦紅葉	山田泰子



俳句遊クラブ活動報告 1 1 9

令和2年11月17日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢8名でした(欠席投句1名)。このところ暖かい日が続いていますがコロナの感染がまた広がっており、寒暖の差も激しいので体調管理に更に気を配りたいと思います。最初に俳句上達のポイント・冬の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「一叢は空へひかりの芒かな」という湯口昌彦さんの句がありました。冬に入ると芒も白くなり、日に輝いているように見える。芒は少し高いところにあるので日が当たると余計輝いて見える。そうした光景を作者は「空へひかりの芒かな」と詠んだもので見事な写生句ということでした。続いて兼題の「冬に入る・立冬・冬立ちぬ」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は12月15日(火)に県活の会議室で行う予定です。例年忘年会を12月の句会の後に行っていましたが今年は見送ることになりました。兼題は「湯ざめ」です(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

七五三晴着のままに抱っこされ
羽ばたきて白鳥湖に輝ける
神鷄の鶏冠真っ赤や冬に入る

11月の句(3名自薦の句)

冬来る古井戸毀す重機の刃	島田千恵
窓の外風花の舞ふ尾瀬の宿	瀧澤正高
菊盛り主に椅子をすすめらる	葛川忠義



俳句遊クラブ活動報告 1 2 0

令和2年12月15日(火)、俳句遊クラブは県活で句会を行いました。梅田先生を含め総勢8名でした(欠席投句1名)。今週は厳寒の陽気となり冬が来たことが実感されます。コロナの感染が拡がっておりコロナは勿論のこと風邪もひかないよう注意したいものです。最初に新年の秀句を学ぶということで梅田先生から講義を受けました。「初空の広さうれしさ鶏鳴けり」という仲寒蟬さんの句がありました。新年に入って初めて鶏が鳴いた。折から正月の空は晴れてきれいな空が広がっていたに違いない。晴れて広い空が広がっていることが嬉しくて鶏が高々と鬨の声を挙げたのだろうということでした。続いて兼題の「湯ざめ」を含む3句を投句し、選句、披講しました。来月の句会は1月19日(火)に県活の会議室で行う予定です。兼題は「凧、凧あげ」です。例年12月の句会の後に忘年会をしていましたが今年は叶わず残念でした。(久保田圭子 記)

梅田博先生の句

討入りの日の熱き蕎麦啜りけり
湯ざめして何のかんのと怒る妻
診察前ジャンパーを脱ぎセーターも

12月の句(3名自薦の句)

冬の朝目覚めと眠気の狭間かな	新井真弓
せめてもの粋を競ひしマスクかな	大森 勇
雪富士を画架に引き寄せ山の宿	山田泰子

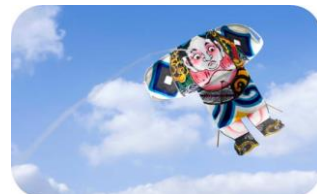


俳句遊クラブ活動報告 1 2 1

令和3年1月19日（火）は俳句遊クラブの本年の初句会の予定でしたが、緊急事態宣言が発出されたため通信句会となってしまいました。いつも仲間と一緒に和気藹々と句会を行っているのですがこの状況下では已むを得ません。一日も早いコロナの終息を願うばかりです。1月の兼題の「凧」を含む3句を蔦川部長宛に提出し、蔦川部長が取り纏めて梅田先生に送って添削をお願いして下さいました。来月の句会は2月16日（火）に県活の会議室で行う予定です。兼題は「梅の花一切、例えば白梅、紅梅など」です。今回は自薦の句はなく梅田先生の3句のみとなります。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

飾られてまだ空知らぬ武者絵凧
冬霧へ一番電車消えゆけり
志なきものは無し冬木の芽



俳句遊クラブ活動報告 1 2 2

令和3年2月16日（火）は県活で俳句遊クラブの句会の予定でしたが、緊急事態宣言が未だ解除されないため1月に続き通信句会となりました。ワクチン接種もようやく始まったので一日も早いコロナの終息を願うばかりです。2月の兼題の「梅の花一切」を含む3句を先月同様蔦川部長宛に提出し、蔦川部長が取り纏めて梅田先生に送って添削をお願いして下さいました。来月の句会は3月16日（火）に県活の会議室で行う予定です。兼題は「鳥雲に」です。今回も自薦の句はなく梅田先生の3句のみとなります。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

春隣腰に真っ赤な上着巻き
きさらぎやまだまだ続きある自粛
日当たりて白梅力強きかな



俳句遊クラブ活動報告 1 2 3

令和3年3月16日（火）は県活で俳句遊クラブの句会の予定でしたが、緊急事態宣言が未だ解除されないため3か月続いた通信句会となりました。緊急事態宣言は解除されそうですが変異株の感染が懸念されており、いつになったら元の生活に戻れるかと不安になります。3月の兼題の「鳥雲に」を含む3句を蔦川部長宛に提出し、蔦川部長が取り纏めて梅田先生に送って添削をお願いして下さいました。来月の句会は4月20日（火）に県活の会議室で行う予定です。来月こそ皆で顔を合わせての句会となるよう願っています。兼題は「春惜しむ」です。今回も自薦の句はなく梅田先生の3句のみとなります。（久保田圭子 記）

梅田博先生の句

山茱萸の喜色溢れんばかりかな
白木蓮天を鼓舞してをるかとも
鳥雲にいつしか利根の土手へ出で





専科一期の会「俳句・遊」

2010年4月～2021年3月活動報告のまとめについて

令和2年3月、いきがい大学伊奈学園の閉校に伴って、残念ながらイナ・ヴォイス事業活動終了、伊奈いきがいネットクラブも令和3年6月でホームページ閉鎖に追い込まれてしまいました。伊奈ネットクラブは、これまでのソフトを使える大阪の「さくらサーバー」への切り替えを進めてきました。私個人のHPは有料で切り替えましたが、これまでの専科1期の会HPは有料となるため切り替えせずに、私のHPの中に「専科1期の会HP」を開設し、整理して現在活動中の「俳句・ゆめ」、「俳句・遊」、「専科合同グラウンドゴルフ」のページも開いています。

「さくらサーバー」へ切り替えたことで、PDFを活用してきた「俳句・ゆめ」は影響を受けませんでした。伊奈サーバーHPに直接書き込み、写真貼り付けをしてきた「俳句・遊」、「専科合同グラウンドゴルフ」は、さくらサーバーにこれまでの資料を送っていませんので、伊奈サーバー廃止に伴い映らなくなってしまいます。令和4年3月まで伊奈サーバー動かすというから、急いで古い専科1期の会HPの2つクラブの記録を整理して私のHPの中の「専科一期の会」HPに掲載することにしました。特に「俳句・遊」については写真を整理した上で、専科1期の会踏み跡集と同様に一つの区切りとして、121ページをPDFにしてまとめさせていただきました。従って、「俳句・遊」のHPには2010年4月～2021年3月活動報告PDFと、すでに「さくらサーバー」に送っている2021.4月からの各月のPDFとで構成していきたいと思っています。

令和4年2月

専科1期の会HP管理人岡村昭則

